

関西学院大学総合政策学部

2016年度 春学期

日本語Ⅲ レポート集

私の研究テーマ

関西学院大学総合政策学部

2016年度 春学期

日本語Ⅲ レポート集

私の研究テーマ

はじめに

牲川 波都季

本冊子は、2016年春学期開講の留学生対象日本語クラス（日本語 III）において履修生全員が執筆したレポート集です。このクラスでは、1学期14週の期間をかけ、クラスでの議論とクラス外での対話活動、レポートの加筆・修正を重ねながら、卒業論文で取り組みたい研究テーマと自分自身との関係について考えていきました。

日本語 III は総合政策学部の留学生、中でも2回生を主な対象としています。総合政策学部では2回生の秋学期に卒業論文・卒業製作に取り組むためのゼミを選択しますので、本クラスはその準備という意味もありました。

卒論ゼミを選ぶためには、自分がどのような研究に関心があるのか、漠然とでもよいのでテーマを考えておく必要があります。では自分の研究テーマはどのようにすれば見つけられるのでしょうか。一つの方法は、講義を聞く、入門書を読むなど、基礎的な知識を身に付けその中から見つけるというものでしょう。一方でこの日本語クラスでは、基礎的な知識をまず身に付けるのではなく、どのようなことに関心があるのか、それは自分の一体どこから来ているのかという観点で、関心と自分との関係を問うことを目標としました。基礎的な知識を身に付けるといっても、大学生すべてが同じ知識を身に付ける必要はないはずです。実際に、講義を聞く、本を読むときにも、必ず一人ひとり違う動機や傾向をもって選び、聞き方・読み方も違うでしょう。

自分はなぜこの講義に興味を持つのか、なぜこの本を読んでこんな感想を持つのか。その自分自身の動機を徹底的に見つめることで、誰のものでもないその人の研究テーマというものが見えてきます。

学期中に、自分自身に固有のテーマが見つけれず、困っている学生がいました。そうした学生に、どんな小さなことでも研究テーマになるというと、非常に不思議そうにしていました。逆に、すでにメディアで喧伝されているようなテーマを安易に選ぶと、自分との関係が薄く、行き詰ってしまうことも伝えました。

こうしたやり取りの中で、私の担当した1クラスで、たとえば余舒敏さんは、授業開始当初、中国の二人っ子政策のための子育て支援をテーマに挙げました。しかし、自分自身も子どもがほしいのかといった質問を投げかけると、そうではないということで、改めて考え直すうちに、日本に留学した経験とそこで感じた孤独から、都市計画におけるコミュニケーションの重要性へとテーマを変えました。そして最近引っ越しをしたというアルバイト仲間との対話活動を終え、都市において気軽に人々が集まれる空間の確保という関心へとたどり着きました。

同じように、李元碩さんは、東アジアの国々の政治的関係をテーマとしていましたが、将来やりたいこと実現したいことという観点から、教育NGOというテーマに変更しました。李さんの対話相手はお姉さんで、日本への大学進学を勧めてくれた理由などを聞き、経済的な問題で留学できない人の支援という将来像を描くようになりました。

このクラスの目的は、なぜ自分がその研究テーマに取り組みたいのか、その動機を深く考えることです。したがって研究テーマについて先行研究を読んだり調査を行うといったことはしません。ですから、今回見つけたテーマが、どこまで実際の学術的な卒業論文へとつながっていくのかは定かでないところがあります。しかし、クラスメートや対話相手といった他者の視点を得つつ、書くという自己省察を繰り返したプロセスは、履修生それぞれの足元を捉えなおすきっかけになったと思います。ここで自分の足元の問題という基盤を見つけられたなら、その解決を徹底的に考えることで、世界の自分と同じような問題を持つ人の問題解決にもつながっていくでしょう。

次の秋学期には、今回選んだ研究テーマに取り組む出発点として、各自で専門的な学術論文を選び、発表しながら読むという試みを実施します。既存の研究論文も、クラスメートや対話相手と同じように、他者の視点の一つにすぎません。自分の問題関心にしっかり軸を置いて読んでいくことで、それをさらに明確に豊かにすることができるかどうか。来学期も履修生と協力しながら、新しい取り組みにチャレンジです。

目次

はじめに	牲川 波都季	2
1 クラス（担当：牲川 波都季）		
教育専門 NGO	イ ^イ 李 ^{ウォンソク} 元 碩	8
フェミニズムの理解	イ ジョンミン	11
中国における子供の安全問題	カク ホウ	14
SNS の利用のメリットとデメリット	キム ^{キム} チャンミン ^{チャンミン} 金 昌民	18
もっといい選択のためのネット情報活用	グオン ヒス	21
自動運転システム	ゲン ^{ゲン} ビン ^{ビン} 嚴 敏	25
政府によるネット配信の制限に対する考察	ダン ^{ダン} キョウ ^{キョウ} 段 強	29
町に新たに共存する不動産	チョン ヒジョン	33
都市と近代史	ム ^ム シウ ^{シウ} 穆 旭	35
コミュニケーションと都市計画	ユ ^ユ シュミン ^{シュミン} 余 舒敏	38
震災時に外国人を困らないように	リク ^{リク} キン ^{キン} 陸 敏	41

2 クラス（担当：横野 さゆる）

フュージョン都市デザインのために	禹 <small>ウ</small> ジョンヒョン <small>ジョンヒョン</small> 廷炫	46
移民問題	カ リキギョウ	49
メディアにおける日中関係	カン <small>カン</small> エンカイ <small>エンカイ</small> 韓 遠会	52
自分自身の研究テーマと今後の課題	カン <small>カン</small> テウ <small>テウ</small> 姜 待旭	55
快適な生活空間ための建築	コウ リキ	58
韓日 FTA—韓日 FTA の成立は可能だろうか—	チェ <small>チェ</small> ユリ 崔 ユリ	61
日本語の配慮表現と敬語	チン <small>チン</small> トウメイ <small>トウメイ</small> 陳 東梅	65
中国 WeChat は日本で普及できるだろうか	ヨウ レイ	68
満州語の消滅について	ロ <small>ロ</small> カリョウ <small>カリョウ</small> 呂 家良	71

1 クラス

担当 牲川 波都季

教育専門NGO

李 元碩

1. 動機文

「教育専門NGO」という言葉は自分もきいたことがないが、自分がやりたいことを一言で表現するなら、「教育専門NGO」という表現がよい。NGOはNon-governmental Organizationの略で、政府から独立している団体をいう。自分の経験から、教育の重要性や留学のメリットを感じたので、より多くの人々が教育を受けることにあたって、障害がないようにしたい。そのため、NGO・NPOについて勉強すべきである。

今、多くの国が格差の問題を持っている。さらに、日本も韓国も学歴社会と言われている。教育は、豊かな家庭ではない人によっては格差を乗り越える唯一の手段である。つまり、人は高等教育を受けることによって、格差を乗り越えることが可能になる。そのため必要とされるものは、まず、本人の意志や努力だが、その意志や努力をサポートするものがないとできない。現在、貧しい学生に対する奨学金制度がある。贅沢なことと思われる留学も、国費留学生のように家庭の経済力と関係なく、自分の努力で留学ができる制度も整えている。しかし、対象になる人は極一部である。

このようなことを考え始めたのは2012年で、当時社会人だった私は自分の仕事に将来がないと感じた。もちろん、どこに行っても、どんな仕事をして、自分より次第であるが、自分は会社をやめるか転職するつもりであった。しかし、特別な技術もなかった私が転職するのはできなかった。この時点で私は教育の大切さを感じた。

会社を辞めた後、今からどうするかを考えるためリフレッシュ旅行をした。台湾のあるホステルで泊まった時、共用のリビングルームで世界の人々と話す機会があった。その場ではフランス人、トルコ人、中国人など英語を母国語としている人はいなかった。だが、みんな英語を使って話した。私はなんとなくコミュニケーションはできたが英語ができなかった人は自分だけだった。英語ができないことは恥ずかしくなかったが、世界の人々は世界と疎通するため努力しているのに、自分は何もしなかったことが恥ずかしかった。そして、韓国に戻ってきて留学を準備して現在に至った。

大学進学や留学すること。必ずいいことをもたらすこととは限らない。そして、これ以外の方法で格差を乗り越えた人もいるはずだ。自分より次第である。しかし、少なくとも熱意のある学生が経済的なことで留学をあきらめることは残念である。うちの家は留学サポートができる経済力はない。だが、一番目の姉は留學生生活を経て今は東京で働いているし、私は現在留學生である。姉はうちの経済力を知っていたので国費留學生になるため努力して、国から学費支援を受ける留學生になった。私の場合は韓国での社会生活がなかったら、留学なんていうことは想像もできなかったものである。このように留学は豊かな家庭で生まれなかったらできない。これは富める者は益々富み、貧しい者は益々貧しくなることのように、資本主義でよくみられる問題点ではないか。このような経験や考えから、私は教育および留学に関する社会的な活動に興味を持つようになった。

2. 話し相手について

話し相手は1番目の姉である。動機文で述べたが、姉は日本留学の先輩でもある。日本で大学、大学院を卒業して、現在、東京で働いている。

うちに家は、留学をサポートしてくれるほどの経済力はないため、姉は自分の努力で国費留学生に選ばれ日本留学をした。姉は留学がしたくて高校時代から情報を集め、国費留学生準備をした。留学先が日本になったのは、日本に興味があったからではなく政府が送ってくれるところが日本だけだったからである。

姉は、私がお仕事を辞めることに反対しなかった唯一の人である。そして、専門学校に進学するつもりだった私を、大学に進学するように説得した人である。韓国で会社をやめようとしてから日本に来て大学進学を決めるまでの課程で教育の重要性を感じた。この課程で、私に最も大きい影響を与えた姉と話してみたい。

姉はなぜ韓国でもいい大学に合格できるはずだったのに留学を選んだか。そして、勉強が苦手な私に大学を勧めたかについても話したい。

3. 対話結果

対話は6月3日金曜日1時間程度であった。姉が東京に住んでいるため直接会うことは出来ず電話で話した。

姉に私がしたいことについて説明した。姉は留学をサポートするのはいいかもしれないけど、普通に国内大学に進学する人を支援する必要があるかと思っていた。内国民に対する借金などのインフラも充実されているし、韓国の大学進学率は問題になるほど高すぎるからである。私も同意する部分であった。

この時点であえて留学を勧める理由が気になった。自分が留学を決めた理由は動機文で「世界と疎通するため」と述べたが、姉が留学行ったのは2003年であって、私は姉の留学動機を知らない。姉が留学を勧める理由が知りたくて、姉に留学を決めた理由を尋ねた。姉は「人の価値観によるが、当時私は韓国が狭いと感じた。グローバル時代と言われていたので、大学4年という時間を有用に使う上、外国語もしっかり学べる留学がしたかった。さらに、韓国の学歴社会も嫌だった。」と話した。

そして、姉はアジア人の留学がより活性化したらいいと考えていた。ここでアジアは主に東北アジアをいう。アジアは欧米と比べ、異文化に抵抗感を感じる人が多い。ヨーロッパは地理的なこと、アメリカは歴史的なことなどの理由があってアジアより異文化に開放的である。アジアも、外国により開放的になる必要がある。留学がその一環として機能するものではないかと考える。

姉が私に大学を勧めた理由は、当時私に選択肢がすくないと感じたからであった。人々は自分が興味を持ったこと、メリットが多いと判断したことを勉強し、仕事にする。そして、一般的に多様な経験をする前決める。私も大学ではなく専門学校に進学して、製菓あるいはインテリア、モノ作りなどの技術を身につけ、それで自分のビジネスをするつもりであった。興味を持っているし、あえて日本にきて学ぶ価値がある分野だと思ったからであった。だが、逆に考えるとそれ以外思いついたことがなかったからとも言える。それで、大学で様々なこ

とを接してから決めてほしかったのが姉の意図であった。

4. 結論

この対話を通じて、外国語の習得や外国での経験などよく思われること以外、国際交流やアジアのグローバル化としての留学のメリットを考えてみた。これだけではなく、私のように自分が何をしたらいいか迷っている人には自分を知るきっかけになることも外国での生活の良さとして考えられる。

そして、この対話のおかげで、私が言いたい「教育NGO」ということが明らかになった。個人の意志や努力は当たり前のことだが、その上、留学をするのに必要なサポートはなくてはいけない。なので、サポートを受ける人が得るもの、そうではない人が得られるものに差が生じる。これは資本主義でよくみられる格差のことである。

資本主義の世界では格差をなくすのはできないが、生まれてからの経済力のせいで得られる経験が限られていることを少しでも減らすことは出来ることである。格差を減らし、階層間の移動ができる社会をつくるためには機械が均等な社会が前提である。何かを勉強するのに海外がよりメリットが多いと感じたら経済な問題であきらめず、挑戦してみることが出来る社会がそのような社会である。

5. 感想

私はこの大学面接の時、「教育に関する支援を行う」という考えを面接担当の先生に言ったことがある。その時は、単純に学びが必要な人々を助けることで終わった。しかし、この授業、レポートを準備するうち、自分がやりたいことが頭の中に整理できた。そして、学期の始まりの頃は、教育に関する支援を行うために自分がまずお金持ちになろうということしか考えてなかったのに比べ、今はずいぶん発展した。2年生の秋学期にゼミを選ぶことになっているので、2年生春学期の日本語時間に、このようなことができてよかった。

フェミニズムの理解

イジョンミン

1. 動機文

フェミニズム (Feminism) とは、女性と男性の間に性別の差 (Gender Difference) で生まれる不平等・抑圧から解放を主張する思想や運動のことだ。他の言葉では女性主義/女権主義とも言う。相対的に低い女性の権利を高めて性平等を実践することで、女性優越主義とは違う。

フェミニズムは男性中心の社会で女性の不平等・抑圧が始まると主張する。また、フェミニズム理論は男女の性別の差と役割は社会的な認識と慣習から始まったことで、この男女の役割の区分は変えることができると主張している。

私は将来政策立案者になりたいと思って来日した。私は高校の時、模擬裁判のサークルで活動をした経験がある。当時から我々の社会問題やその解決法などに興味を持つようになった。その中でも私は一番興味を持った社会問題は人口問題、特に少子高齢化である。

私は日本は韓国と地理的な位置から歴史的・政治的など、色々なところから密接な関わりがあって、とても似ているところが多く、学ぶことも多いと思った。特に、韓国よりも早く高齢化社会に入った日本は、1970年代から高齢社会政策の基盤が整え、韓国よりも早く対策を樹立・施行してきた先輩とも言うべき日本から政策学を学びたいと思ったためだ。

私が1回生のとき入った基礎演習では、人口問題、少子高齢化について学ぶ機会があった。基礎演習の先生は、人口問題の中でも保育園の整備と女性の出生率について研究していた。それは私が今まで考えてないテーマで、とても面白い授業だった。そのときから私は女性の社会進などに興味を持ち、それと密接な関わりがあるフェミニズムについて学びたいと思うようになった。

私は最近韓国で嫌悪の文化が広がっている印象を強く受けた。その始点になるのが韓国の首都ソウル市内で起こったカンナム殺人事故だ。この事件はある精神病者が女性嫌悪を殺人と言う凶悪な犯罪の形で表出した事件である。この事件は単純な殺人事件で終わらなく、犠牲者を追悼するために集まった会で、女性・男性の性別に分かれてお互いに嫌悪の発言をしたり、けんかをする会に変質され、性の葛藤・嫌悪が社会的な問題になった。

私は21世紀、フェミニズムは色々な社会問題と関係があり、フェミニズムについて理解することは重要なことだと思った。しかし、フェミニズムはその中で色々な分派に分けていてとても理解が難しい。実際、私が興味を持って調べてもよく分からないことが多かった。私はこのレポートで自分も勉強しながらフェミニズムの歴史から色々な分派について話したいと思う。

2. 対話相手について

私は対話相手として小学校から友達だった K さんを選んだ。私は今回研究テーマで選んだフェミニズムというテーマが自分にとってオリジナリティが低いと思った。それで、私をよく知っている人と話し合いをしたいと思った。K さんは小学校から中学校・高校まで私と同じ学校を卒業した友達だ。K さんと私の家は近くだったので、小さいころから一緒に過ごす時間が多かった。それで、家族を除いて、私についてとても詳しい友達だと思った。また、今まで K さんと私は交通の興味が多く、本を読んで話あったり、新聞を読んで話したり、色々な社会問題などについて話す機会が多かったから、今回、特に韓国でも大きな社会問題として取り上げられたフェミニズムについて K さんが考えたことを聞きたいと思ったためだ。

3. 対話結果

K さんとの話し合いは 2016 年 6 月 2 日午後 9 時半から 10 時 10 分まで、約 1 時間 10 分間行われた。連絡方法は Skype だ。まず私は今学期日本語授業で行われている研究テーマメモについて説明した。その後、私が選んだテーマであるフェミニズムについて説明し、なぜそのテーマを選んだかを説明した。その後最近韓国で発生した、殺人事故と性別の嫌悪の問題、またフェミニズムについて K さんが考えていることについて聞いた。

まず、K さんは最近韓国であった殺人事故は女性嫌悪に関して、この事件は女性嫌悪が一番悪い形として表出された惨い事件で、この事件を機会に社会的にフェミニズムについて議論されるころになったのは良いと思う。しかし、この問題から男女の性別に分かれて戦いに転換したのは同感できないといった。K さんはこの問題を見ながら、何よりも優先すべきである被害者を追悼とこれからこういう問題が発生しないように対策を立てることよりも、被害者の性別だけを表に立て、誰も被害者を考えてないという印象が強くと、それが問題だと思っていた。

また、K さんは今までフェミニズムについて深く考えたことがないと言った。それで、私は K さんが今まで性別の差で受けた感じた不平等や抑圧・差別があるかについて話した。

しかし、K さんはまだ、記憶に残るぐらいに大きいな経験はないと言った。しかし、私と K さんが色々話しながら、小学生から今の大学生まで学校で給食を食べているけど、男性と女性は同じお金を払っているのに、女性より男性のほうにもっと食べるからと言う性別なフレームを持っている人が多く、実際給食をもらう際にも男性のほう量が量をもらうと言った。

また、K さんは私たちが生きている社会では女性に画一的な美求められていると言った。外貌を飾ることと、私の外貌を飾りたい欲求は違う。人は社会的な学習で自由であることは難しい。そのため、その社会が定めている美に目がとまり、欲求を持つのは自然なごとだ。しかし、それが社会定めている画一的な美を自分の欲望に追っていることと、自分は自分なりに自分を飾

ることは違うことなのに、この社会女性に画一的な美を求めている。

Kさんは周りから、化粧をしなければ恥ずかしい、礼儀がない、なぜ化粧しない？ということ聞いた経験がある。それは女性に対し、画一的な美を求めるフレームを持っているためだ。化粧はある女性にとって自己表現の手段であるが、それが他の女性にとっては絆になってはいけないと言った。

実はフェミニズムといえば、なんか大きな問題みたいに聞こえるけど、実は私たちの生活に溶け込んでいる意識の問題で、これを解決するのが一番重要だという結論で、Kさんとの話し合いは終わった。

4. 結論

対話相手と話し合っ、私はフェミニズムということを経験したと認識していた。それで、この問題を私が解決をすることはできないと思った。しかし、色々な人と話し合ったり、インターネットとかで本や論文などを探して見てから私が感じたことは、実はフェミニズムという言葉も難しそうなこの問題は大きな社会問題ということより、私たちの近くにある意識の問題だったと思った。実は、私たちが持っている、女性性、男性性という性別の考え方は、生まれながら学習したことで、それは私たちが持っているフレームに過ぎないかも知らないと思った。この問題を解決するためにはポストモダニズムと言う考え方の上に立てられている 21 世紀には何よりも昔から構築された社会的フレームを打破しようとする考えからこのフェミニズムは始まると思う。

5. 授業を受けた感想

オリジナリティーがあるテーマを決めるのはとても難しいと思った。特にこの授業を受ける前の私はレポートを書くときには何か大きな社会問題などを取り上げなければならないという認識が強かった。それでとてもテーマを決めるのが難しかった。結局自分が選んだテーマは自分のオリジナリティーあまりにも低く、レポートを最後まで書くのが難しいと感じた。また、授業を受けながら先生とクラスの人、色々な人と話しあってみたら、オリジナリティーあるレポートの重要性を感じた。この授業のおかげで、自分が興味ある、オリジナリティーがあるレポートだったらもっと集中して書くのができると思った。3 回生の進級レポートから、卒業論文までまだ私が書かなければならないレポートは多い。なのでこの授業を受けてとても良かったと思った。

中国における子供の安全問題

カクホウ

一、動機文

1. まとめ：

子供は国の未来と家庭の中心であると思っている。だから、子供の安全問題を重視しなければならない。中国では毎年意外をおこる子供の数がとても多くて、子供の安全問題について日本のやり方が世界中でも進んでいる。日本では周りは親いなくても遊んでる子供の姿がよく見えるが中国ではありえない光景である。近年、中国の経済方面はものすごく進んでいるが子どもの安全問題について重視していることが見えない。だから、中国がただの経済発展だけではなく、日本のように子供に対して安心、安全の生活環境を作って欲しい。一体、どうすれば日本のようになれるか、どうすれば中国の子供安全問題を改善できるか。これは、中国の社会問題に対して大切な課題であると思う。

2. 理由：

私は子供が好き。最初に大学を選ぶとき教育関係がある大学を選びたかったが色々な原因で行けなくなった。しかし、私は子供に関心を持つことに影響がない。この問題についてほかの人と相談する時、よく笑われた。「子供がいないのに、何にも分からないだろう」「お前も子供みたいな」みたいことも言われたことがある。実はこの問題に関心を持つことは個人の年齢と経験が関係ないと思う。大事なのが気持ちの問題だ。私は毎回新聞記事の子供意外問題を読むと悲しくなる。毎回ネットで子供が誘拐され、殺されたニュースを見ても心から感じが悪くなって、きつくなる。だから、子供の安全についてどうしても自分が何にがやれることをやりたくて。これは自分がやりたいことだという声が心から出てきている。

現在の中国では意外で死亡した子供が全国子供の死亡率の四分の一を占めた。中国の子供の被害率は順番で並ぶと交通事故、中毒、水に溺れると他の意外に傷つけること。意外で死亡した子供は、子供総量の26.1%を占めた。換言すれば100人死亡した子供の中では26人は意外で死んでしまった。私の小学生時代でこんな悲劇が私の周りに起きた。あの時、同じマンションに住んでいる子供たちがよく一緒に遊んだ。

ある日は隣で住んだ女の子が、突然に見つけられなくなった。周りの人々聞いてもなかなか結果がなくて、まだこういう悲劇が起こっている。詳しく考えると、これも親のミスではないかな。小さい子供が遊ぶ時彼たちの身を守って、家に帰る時迎えに来るのは親の責任ではないか。子供は家庭の希望である。一旦、何があったらもともと幸福な家庭が一瞬に崩れる。意外傷つくと意外死亡事件が一番人に軽視しやすい問題である。多分大丈夫だろう、そんなことありえないから大丈夫という考える親たちが少なくないと思う。上記のように、人々は子供の安全問題についてもっと注目して欲しい。意外で不幸な被害事件を繰り返さないため、安全対策と親たちの安全意識を考える必要がある。これから、総合政策学科に入って、いろいろな社会問題について勉強すると思う。社会安全問題から子供安全問題と関係ある知識を勉強したくて、日本の先進的な子供に守る対策を勉強したい。

二、 対話相手

今回のテーマについて、話し相手は前日本語専門学校の友たち、朱さんという人。彼女は今大阪教育大学で子供教育について勉強している。彼女が現在取った授業の中では子供の教育だけではなく、子供の教育についても色々なことを勉強している。それで、私と一緒に、子供に興味があって、将来子供のために自分の力を出したい人である。私はただの子供に対して関心を持っているが朱さんは子供が社会に影響できるから子供に関して興味を持つようになったといってくれた。朱さんは卒業したら先生になりたいではなくて、できるなら子供教育とか子供を守る機構で働きたい。一方、彼女が私よりもっとシステム化な考えかたを持っている。私は教育学校行けなかったから、彼女は勉強したことを聴いて、前子供の安全問題について分からないことが分かった。私は今回書くレポートについてとても助かると思う。だから、彼女が対話相手を決めた。

三、 対話結果：

概要：

今週の土曜日、朱さんと大阪で会って対話を行った。対話時間が約 70 分ほど。朱さんは自分が受けた授業の講義も持って来てくれた。

朱さんは主に子供教育について勉強しているから、子供の安全問題について分

かるがそこまで詳しくない。だから、私は朱さんと彼女が持ってきたプリントに基づいて対話を始めた。プリントの中で日本の基本的な子供を守る方について参考しながら会話をした。

内容：

まず、私と朱さんは中国では子供の安全問題の問題点について各自の考えを述べた。例えば、家庭問題、社会環境、学校問題など。私は一番大事の問題点が社会環境と思う。第一、外来人口は犯罪すること。中国では人口が多くて素質教育できてないところがまだいっぱいある。よく知らない町で生活できない人が、自分の故郷を離れて犯罪しても運が良ければだれも見つけられないと思うバカものが少なくない。社会の中では一番弱い群体が子供であると思う。だから、彼たちは犯罪するつもりの場合、子供たちに一番手を出しやすい。これが大変な問題である。第二、現在社会の正義感の問題。中国の現在社会では自分と関係ないことを冷淡することが普遍である。例えば、自分の周りで子供誘拐事件があっても自分の子供ではなければ声さえも出さない現象。このせいで、犯罪者がますます高慢になってしまう。もし、この現象を抑えないと子供たちは被害率がまだ上がっていくと思う。人々が力を合わせてこそ安心、安全な子供を育ち環境を作れる。

朱さんは中国の子供の安全問題について一番大事なのが学校問題であると思っている。なぜですかと聞いて、彼女が子供たちに学校の影響が深いと答えてくれた。朱さんは中国の子供安全問題について学校から安全教育不足という問題点であると思う。確かに、中国の学校方面も学生によく安全問題に関して強調した。しかし、片言しかないので子供たちを守るについてあまり効かない。中国のやり方と比べて日本の方がもっとシステム化である。例にして、日本の学校が幼稚園から子供たちの定期安全講座を行っている。子供が自分自身の危機対応能力を育て学校から子供たちに安全意識を教わる。なぜか日本の方がシステムかというか、生活安全、交通安全、災害安全など問題が全面的に含めているからである。上記の知識は学校の中で利用するだけではなく日常生活の中でも効く。また、子供の安全問題は突発事件が多いから、子供たちが自分自身を守る力とやり方を持たせるほうが一番いい対策であると思う。

四、 結論

今回の対話で自分と違う考え方を受け入れてとても勉強になったと思う。中

国では子供が強ければ国が強いという言葉がある。つまり、子供が国の未来である。現在の中国は確かに経済が急速に発展しているが子供の問題を解決できないと発展が続けられない。だから、これから子供の安全問題を重視すべきだ。

では、一体どうすればいいだろうか。まず、中国において子供の安全問題について問題点を探さなければならない。だって、病気の治療と同じ、病因が分からないと薬を出せない。それで、その問題点について反省すべきだ。一方、子供の安全問題に先進国のやり方を手本して中国の不足なところを改善する。当然、国によって国情が違うから完全にマネするのが無理から。先進国のやり方を参考しながら自分の国に相応しいやり方を探すべきだ。

子供の安全問題は重視すべきだ、子供の安全問題は人々の努力要るだと言っても実施することが難しい。なぜなら、人によって、関心することが違うから。だからこそ、私と朱さんみたい子供の安全問題に関して興味ある人たちがもっと頑張って、この意識を広げなければならない。

五、 感想

今はレポートをできた。一番深い感想といえば、今学期の日本語授業を受けて自分はやりたいことが分かってきたことである。最初の時、特定テーマではなく自分が研究したいことについて書いたらいいと聞いた時嬉しかった。しかし、自分が心から思わないと動機部分から苦しかった。途中で、テーマを変わろうと思ったが。一週間で考えて悩んで最後、まだ元のテーマ子供の安全問題について書いた。なぜなら、やはりこれこそ自分が書きたいことからだ。それから、レポートを書く時に自分内心の感情を入れてこのレポートを完成できた。

SNSの利用のメリットとデメリット

総合政策学部 メディア情報学科

金昌民

1. 動機

最近、SNSの利用が急増し、社会的問題が全世界的に、重要な問題として話題されている。

SNSとは、ソーシャルネットワークサービスという名称の略語であり、ネット上で不特定多数と関係を結ぶことや、既存の人脈を強化することができるサービスであって、フェイスブック、ライン、ツイッターなどのサービスがある。

現代社会で、このSNSの利用は様々なメリットやデメリットを持っている。私も、SNSを使いながら、メリットとしては、韓国にいる友達や海外にいる友達との連絡をよりしやすくなったことである。一方、食事や友達と話すときにもSNSを使いながら、実際自分の前にいる相手の話に集中しないことなどのデメリットもある。私も、時々友達とカフェや飲食店で話をするとき、友達が私の話を聞かずにスマートフォンをいじったりして、怒ってケンカした経験や、町を歩きながら携帯をいじって壁や電柱にぶつかったりした経験もある。そのため、このような経験から、SNSのメリットやデメリットによって、私の実生活に与える影響は少なくないことが分かる。

それで、私がこれから、開発したいSNSアプリケーションは、この、基本的なマナーを守りながら、人々の実生活にも、ネット上での生活にも、疎通できるSNSアプリケーションである。私がこのSNSアプリケーションを開発するためには、フェイスブックや、ライン、ツイッターなどのSNSを分析し、利用者の使用方法を把握して、将来、私が作りたいSNSアプリケーションに役に立つと思われ、私は、今に盛行しているSNSのメリットは、デメリットについて研究したいと思っている。

私はSNSの利用のメリットやデメリットを明らかにし、メリットをより生かし、デメリットを防ぐ対策を立てることで、ネット上での人脈や現実の友達との会話などを心配せず、SNSの利用のメリットの恩恵を受けると考えられる。SNSの利用が持つ役割、サービス範囲拡大やO2Oサービス（オンラインサービスをオフラインサービスと連携すること）などが今後、全世界に与える影響は非常に重要であることに間違いのないと思われることや、私が制作したいSNSアプリケーションにも役に立つことにも、間違いのないと思われる。

以上が、私がこのSNSの利用のメリットとデメリットを研究テーマとして取り上げた理由である。

2. 対話相手の紹介

私の対話相手は同じ総合政策学部メディア情報学科の2年生の留学生の姜待旭（かんてう）という方である。この方がメディア情報学科に入った理由は、将来、コンピューター系列の職に就きたいことと、パソコンに興味深いことなどである。私がこの方を対話相手に取り上げた理由は、私と同じようにパソコン系に興味深く、将来は違っても、同じ学科であるので、アカデミックな話でも盛り上がる人が多いと思われる。また、これから2年間付き合う人として、今までより多くの知識を共有し、討論し、またその人の思考を参考にしたいからである。よって、姜さんは、私のレポートのテーマであるSNS利用のメリットとデメリットについて最も気軽に相談できる方であり、また、最も効果的に指摘をしてくれ

る方なので、対話相手として最適であると思い、姜さんを取り上げたことである。

3. 対話相手との対話結果

まず、私の対話相手、姜待旭君と対話した結果の概要から紹介したい。

- 私のテーマであるSNSの利用のメリットとデメリットについてどんな考えをしているか
- SNSのメリットや、デメリットの研究範囲はどこまで決めるか
- SNSをいつ初めに使ったのか
- SNSのせいで被害を受けたことがあるか
- 姜待旭君が感じたメリットとデメリット

概要は、上に述べたことである。それでは、姜待旭君と対話結果について見てみよう。

まず、私のテーマであるSNSの利用のメリットとデメリットについて姜待旭君がどんな考えをしているのかみると、“研究テーマとしては、少し軽いと思うが、SNSを利用する人々が多いことや、実生活に関連したテーマであって、多くの関心のもらいそうである”と答えた。

次に、SNSのメリットや、デメリットの研究範囲はどこまで決めるかについて姜待旭君と話したことは、フェイスブックやツイッター、インスタグラム、ラインなどの、すべてのSNSを含む研究を行うか、それではなく、一つ取り組んで研究するかについての話し合いをして、私が決めたのは、SNSのすべてを研究範囲に設定することにした。

3つ目に、SNSを初めて使用した時期について二人とも、話し合いをした。

私が、初めてSNSを使った時期は、中学校1年の時であって、年度としては、2005年頃である。使ったSNSは、韓国形SNSである。Cyworldという、SNSであって、今で言うフェイスブックのようなものであった。使った理由は、その時代に結構、流行っているSNSであって、ネット上にも友達とのかかわりや、人脈形成などで初めて、SNSを使った。

姜待旭君が、初めてSNSを使ったときは私と同じ頃である2004年の時であった。使ったSNSも同じ韓国形SNSであるCyworldであることや、使った理由もほぼ同じであった。

4つ目に、SNSのせいで被害を受けた経験があるのかについての私の意見は、個人情報の流失によるスパムメールや、ボイスフィッシングなど、それと、オフライン（現実世界）での礼儀がなくなることや、友達との関わりが、SNSでの関わりより、気まづくなる現状などがあると思っている。

姜待旭君が思ったSNSのせいで被害を受けた経験としては、“SNSの頻繁に使い、時間を取り過ぎて、結局自分の仕事や、やるべきことなどをやることができなくなる副作用や、寝る時間にも悪影響を与えている”と答えた。

最後に、姜待旭君が感じたメリットとデメリットについて、姜待旭君は以下のように答えた。

まず、メリットとしては、自己満足、現実からの逃避、金稼ぎ、知らない他人との疎通、人脈形成などがあると判断している。

デメリットとしては、接近性がよいため、人たちが時間を取り過ぎていると思うことや、オンライン上の疎通は増えた半面、オフラインでの疎通は減ったこと、食事礼儀などの基本的な礼儀がなくなったことや、政治的に扇動されること、詐欺、個人情報の流失による現実的損害（殺人、強姦）などがあると答えた。

以上が、姜待旭君との話し合いで、出た意見や考えである。

話し合いをする時にも、二人ともSNSを使いながら、話し合いを行ったことを見て、SNSが持ってくる副作用が確かにあるともう一度確認できたことや、これから、私がどんな方向で、SNSを利用による実生活に関する礼儀や人間関係だけではなく、SNSを使いすぎて睡眠に与える影響や政治的に扇動などの研究を行うかについて考える有益な時間であったと思われる。

4. 結論

結論では、SNSの利用のメリットとデメリットについての動機や対話を通じて、上に述べたように、SNSによるオフラインやオンライン両方で行っている睡眠妨害、政治的扇動、個人情報の流失、人脈形成など私が以前よりこのテーマを選んだことより深く考えることができた。

なぜかという、SNSを利用しながら感じた私の経験や、姜待旭君との対話で出たことを利用して、以前よりも深くSNSの構造を知りたくなったことや、それを利用する様々な年齢の人々に対して多くの影響を与えるを感じた。

それで、私はSNSの利用のメリットとデメリットを研究しながら、新たな提案を出したいことや、新しいSNSでO2Oサービス（オンラインからオフラインにつながるサービス）を開発し、SNSで人々の日常や人脈関係などのメリットを生かし、デメリットを防ぎたいと思った。

5. 感想

最後に、この授業を行いながら、私が感じた感想としては、今までのレポートとは違って自分が取り組んでみたい研究テーマを選べることができ、自由度が高かったことで、最初の動機の部分を書きにくかった部分があった。

しかし、どんどん自分なりの考え方や、対話相手との対話によって、自分が研究してみたいところをより深く考えたことや、私がなぜSNSの利用のメリットとデメリットを研究しなければならないのかについて、私だけの経験を入れ、より説得力を持つことは、本当にいいと思われた。

この授業によって、新しい形式のレポートを書くことによって、私がこの関西学院大学で、何を学び、何を研究したいのかについて、考える授業であったと思われる。

1. 私がこのテーマを選んだ理由

私が日本留学を決心する時に一番大きい影響力を与えたのは「ネット」であった。一回も行ったことのない日本という国を知り、日本の文化に興味を持つようになったのはネットでの様々な日本の情報であった。私はテレビを見て、日本の祭りのような文化や番組に興味を持つようになった。もっと多様な情報を探したいと思ったときに、いつも使っていたのは「ネット」であった。様々な情報を接してから日本留学を確信した。

変化や新しさを恐れていた私にとって、何にも知らない日本という国に留学するという事は大きい挑戦であった。この挑戦がもっとうまくいけるように手伝ってくれたのは「ネットでの情報」であった。ネットでは海外留学を経験した人々の話が載せているブログやもっと詳しく、正しい情報を得られる公式ホームページなどがある。私が主に使ったのはブログで、経験者からの生々しい話を読めるということはかなり役に立った。もちろんブログだけでは信用性が低いので学校の公式ホームページの情報もよく確認した。

ネットのいい点としたら、ネットは既存のマスメディアとは違って、双方のコミュニケーションが出来るということである。テレビやラジオ、新聞などの情報はただもらうだけで、自分の意見や質問はしづらい。しかし、ネットは両方の意見交換や、自分が求めている情報がすぐに探せる。その中でも一番のメリットとしたら、情報検索の速さと双方コミュニケーション、また情報の量が無限定を挙げられるだろう。今やどこでもいつでも自分が知りたい情報は検索一回で得られる。またその情報について、疑問を持つ時や、もっと自分の知識や経験を共有したい場合、簡単にコミュニケーションをとれる。また情報が多いので、多様な意見や知識を簡単に見れるというのも魅力的の一つである。

日本の大学のメディア学科を探す時にもそうであった。日本に行って学校の情報を調べることは不可能だったので、ネットがとても役に立った。メディア学科のある関西の大学を探し、関西学院大学を見つけた。受験情報や学校の説明などは関西学院大学の公式ホームページで得た。私が今ここで勉強していることもネット情報のおかげだろう。私はこのようなネットのメリット・情報のおかげで自分にとって一番いい選択ができた。それで私みたいにネットでいい情報を得て自分に役に立った経験がある人と対話してみた。対話相手は、私と動機が似ている人とした。ネットのいい部分だけでなく悪い部分も、様々な意見が聞けたらいいだろう。

2. 対話相手の紹介

私の対話相手は去年、一緒に寮生活をしていた交換留学生の友達‘チョイヨンミン’である。1年間同じ寮で生活してきて、仲良くなった友達である。ヨンミンはネットで情報を探して、交換留学やワーキングホリデーの準備をした。その結果、交換留学もワーキングホリデーも合格するようになった。今年9月からワーキングホリデーで1年間日本で生活する予定である。ヨンミンも私と同じくネットのいい情報をよく活用して、もっといい選択ができたので対話相手に決めた。

3. 対話結果・自分の意見

6月6日、ヨンミンと「もっといい選択のためのネット情報活用」について役120分間程度話した。

まず学校のホームページで交換留学の募集広告を見たのが日本交換留学のきっかけであった。日本に交換留学を決める前、日本についてのイメージはアニメやドラマしかいなかったといってくれた。

ネットでの広告を見て交換留学に興味を持ち、申し込むようになった。当時は日本語の資格をもっていなかったので行けるかどうかわからない状態だった。しかし関西学院大学だけが日本語の資格なしでも来れるようになっていたので、関西学院大学を選んだといってくれた。日本語の資格はもっていなかったが、日本語は少し話せるし、元々成績が良かったので合格できた。合格してからは両親からの仕送りはもらえないので、生活費の心配をしていた。さらに交換留学生は最初の3か月間アルバイトが禁止されていたので困っていたといった。その時に探したのがJASSO奨学金（日本学生支援機構）であった。JASSOの詳細情報は公式ホームページで探し、書類や面接の準備はブログの経験談を読んだらしい。そのような努力のおかげでJASSOをもらえるようになり、一か月8万円ずつ1年間支援をもらえたので、楽に留学が出来た。

ヨンミンは自分に必要な情報を色々なサイトで探してみたが、特にブログで様々な話を読んできたといった。これは私と同じく、ブログを通じて日本の情報や話を読んでいた。ヨンミンは1年間の交換留學生活について、本当に楽しかったし大切な経験や素敵な友達が出来て嬉しいといった。日本生活の機会を得たのはネットでのいい情報が役に立ったという意見であった。

現在ヨンミンは自分が得た大切な経験や話を書いて、自分も人の役に立ちたい、色々な経験を発信していきたいということで、ブログを始めたといった。ブログを見てみたら、自分の話だけでなく、人の役に立つような様々な情報を載せていた。また交換留学で終わりではなく日本にワーキングホリデーに行くことを選択した。その理由は日本でいい思い出がたくさんあったから、また学んだ日本語をもっと使いたい、将来（仕事）に活かしたいという理由であった。

また交換留学を終えて、韓国に戻った時日本語を忘れそうだったのでユーチューブを通

じて日本語の文法や発音の勉強をした。また日本語らしい表現を探してみたり日本語勉強にもかなりネットを利用して。この部分でも私も同感することはネットは本当に素晴らしい教材ということだ。日本に来る前、日本語の発音や勉強のために検索やユーチューブを活用していた私には共感のある話であった。ヨンミンは主にブログを通じて興味のあることを探して情報を得た。自分の経験をよく話してくれたり、自分の大切な経験を共有したい、いい情報があれば伝えたいと思っているブログをよく見るといった。最後に、ネットの一番いい点としたら、会って話してみないと得られない、分からない話や情報を簡単にもらえるのは本当にいいと思っているらしい。ブログもいいけど信頼性の高い公式ホームページを利用したらもっと助けになるといった。

私も日本留学を準備する時に色々な情報をブログや学校の公式サイトで得たのものですごく共感した。しかし自分が情報を得ることを超えて、発信したい・自分の経験を語りたいという考え方は素敵だと思った。このような人がいるからこそみなはいい情報をもたらるし、もっといい選択が出来るのだと思った。ヨンミンとの話を通じて、た人に役に立ちたいという考え方に共感し、感動した。

ネットはよく使ったら本当に役に立つ。しかし盲目的に受け入れることは危険があるので、判断しながら使うべきである。嘘の情報に騙されないように気を付け、自分の役に立つ、助けになるくらいで受け入れるべきだといった。ここで問題なのはネットの嘘の情報を判断できるということは、あるくらいその情報に詳しいということにもなる。間違っていることすら分かっていないので、間違ったかどうか判断出来ないのだ。様々なネットの情報の中で、正しい情報だけを探すということはかなり難しい。間違ったと判断できるようになるためにはその情報についての知識が必要だからである。このような問題を防ぐためには評価のいい情報を得ること、また分野知識を広めることで他の手段を利用してもっと正しい情報を得るとする努力は欠かせないだろう。

どのように、多様な情報を有効に使うのかは私たちの今からの課題であろう。

4. 結論

私だけでなく、周りでもネット情報のすごさを感じ、それを利用している人は多かった。ヨンミンは特にネットを利用して、色々な情報を得た人の一人であった。ネットの情報は本当に無限大であり様々である。このような事をよく利用したら私たちの生活はもっと豊かになるはずで、もっといい判断と選択が出来る。自分の進路を迷っている時に先生や家族、友達と話し合うこともいいけど、様々な意見を早めにもらえることはネットのいい点ではないかと思った。特に留学ということは国内の話ではないので、海外の情報が必要とする。海外の情報はその場所に住んでいる人ではないと得られにくいので、特に役に立つはずだ。

ネットを活かしていい選択が出来た私にとっては、皆がもっといい選択をするためにネットの良さを知り、活用してほしいという考えを持っている。私はこれから供給者側にな

って、色々な情報を発信していきたい。メディア情報学科に入った理由もマスメディアやネット環境で情報を発信し、私がもらったように他の人にも役に立ちたいからである。

5. 授業を受けた感想（良かった点・改善点）

授業の最初、テーマを決められなくて本当に悩んでいた。私はいいと思っても、クラスのみなや先生と話してみたら、オリジナリティが足りないとかテーマの範囲が広すぎる、なんでグオンさんがこのテーマについて考えなければならないのかなど色々なことを言われた。初めて日本語の授業が怖くなった。しかし先生やみな話をよく聞いて色々考えながら私と本当に関わっていることとは何か、なんで私がこのテーマを考えなければならないのかなどの考えをし始め、書けなかったレポートも自分の話や友達との対話で書けるようになった。テーマを決めることはものすごく難しく、特に自分の顔が見えるテーマとは何かについて考える時間になった。ただ与えられたテーマのレポートだけを書いてきた私にとってはとても辛い時間であった。自分でテーマを決め、そのテーマについて経験を入れて書くのは大変だったが、テーマや自分の経験が入ったからこそもっと書きやすい、自分らしいレポートになった。考える力や自分についてもっと考える時間になったのでいい授業だったと最後になって思った。

残念だった部分は、やはり私にとっては私のレポートだけでも精一杯だったのでクラスの友達のレポートをもっと考える時間は少なかったと思える。これは私だけの問題かもしれないが、もっとみなレポートに集中できるような方法があったらいいと思った。例えば、パートナーを決めて、お互いのレポートをもっと考えてあげるとかどこかが足りないとか素直で役に立つ意見が必要だ。最後のようにレポートを皆に見せながら回る方法はよかった。特に私の場合はチャンミンが私のレポートに興味を持ち、授業が終わった後も、自分の意見を延べてくれたり、もっといい方向にいけるように意見を出してくれたので、あるくらい方向を決めることができた。

自動運転システム

総合政策学部 メディア情報学科

巖 敏

1. 動機

私は電化製品に非常に趣味があるので、メディア情報学科を選択した。そして、近年大幅に進んでいる人工知能が趣味を持って、研究したいと考える。特に人工知能の中に自動運転システムという分野はこれからどのように進化し続けるのかなのか、いつから私たちの生活中に普及できるのかなのかを知りたい。

自動運転システムとは、人間の運転なしで自動で走行できる自動車である。レーダー、GPS、カメラで周囲の環境を認識して、自分で指定する場所を走行することができる。人間が状況判断には限界があるから、自動運転システムも危険性を早めに感知し、回避できる一方で、潜在的な障害もある。今後、世界に与える影響が非常に大きいと考えている。

私は自動車の運転が嫌い。なぜなら、運転の免許証を取るまでは時間がかかるし、厳しい交通ルールを守らなければならない。また、私の出身地上海では、昔にあれば、道路いっぱい広がる自転車という光景を思い浮かべたかもしれないが、現在の上海では自動車の台数が増えすぎて、朝には特にひどい渋滞が発生している。通常 30 分かからない距離でも、渋滞の時には 1 時間以上かかる、中心部への通勤に 1 時間以上かかるのは上海でも普通になっている。毎日道路が混んでいて、運転するのが時間も精力も非常にかかるから、自分が中国も日本も運転の免許証を持ってない。自動車運転システム技術により、道路状況の把握や自動設定なども可能であり、人による運転よりも圧倒的な安全性があるし、渋滞の大幅な解消も期待できる。車間距離を詰めて運転し、混雑する道路を避けトラフィックを分散することの解消もできると考える。もし、これから自動運転システム技術がうまく進んだら、きっと私たちの生活に大きな変化をもたらすはずだろう。

このレポートでは、まず、自動運転システムのメリットとデメリットを明らかにして、デメリットを解決するためにはどんな対策が必要なのか、今後の課題として研究したい。以上の理由で、このテーマとして取り上げた理由である。

2. 対話相手の紹介

私の対話相手の紹介については、同じ総合政策学部メディア情報学科の 3 年生の留学

生のLさんである。彼は、私と同じメディア情報学科だけでなく、同じ上海の出身で、同じ年で、四年前に日本語学校で知り合い友達であり、今は私と同じ興味を持っている友人また先輩である。彼は将来、コンピューターゲーム界を活躍するため、メディア情報学科に入った。今彼は私と同じ TIJERINO Yuri A の研究室を選んで、人工知能分野で新たな領域を開拓し、世界範囲で幅広い期待の次世代ネットワークの語義ネットにおいて、豊富な経験を持っている Yuri 先生の下にゲームのプログラミングを研究している。私がLさんを対話相手に取り上げた理由は、彼は私の友人としては、自動運転システム技術はもちろん、今ますます流行っている AR (拡張現実)、VR (バーチャルリアリティ)、TV ゲーム (PlayStation4 xbox One)、漫画アニメにも私と同じ興味深い、非常にいいアドバイスをしてくれるし、私のレポートについては一番相談しやすい人だと考えるので今回、彼と話し合いことが決まった。

3. 対話相手との対話結果

3.1 概要

私とLさんはほぼ毎日バスの中で対話を行っている。自動運転システム技術のテーマについては、毎回約 20 分程度を話している。最初は二人で今の自動運転システム技術はどこまで進んでいるかを話した。そして、自動運転システム技術だけではなく、それについて今研究している自動車会社を比べながら話した。それをきっかけに、彼も私自身も自動運転システム技術についてのことを以前より興味深くなった。また最後に、自動運転システム技術についてのメリットとデメリットを答えた。

3.2 自動運転システム技術の現状

まず、私とLさんは自動運転システム技術の現状について話し合いをした。システム技術は、どんどん世の中に普及していくと考えられている。自動車会社や各種メディアは、それぞれ独自の予想を発表しているが、全てに共通しているのは、自動運転車の市場規模が今後拡大していくということに二人とも共感した。そして、実は私は調べて見ると、今の自動運転システム技術は四段階を分けている。まずレベル1は安全運転支援システムであり、レベル2と3は高度運転支援システム（飛行機、新幹線などの運転支援システム）である。レベル4は完全自動走行システム（2020年後半実用化予定）である。そして、私は今の自動運転システム技術は四段階を分けていることをLさんに教えた後、彼が「そこまで詳しく分けているのがすごいな、全然想像したこともなかった」と言った。

3.3 今自動車運転システムを研究している自動車会社

私は最初に思い出した自動運転システム技術を研究している会社がアメリカのテスラモーターズ（バッテリー式電気自動車と電気自動車関連商品を開発・製造・販売している自動車会社）である。テスラは自社の自動運転技術について、加速・操舵・制動のうち複数の操作をシステムが行い、ドライバーの監視が必要とされる「レベル2」に属するものと公表している。

Lさんは最初に思い出した自動運転システム技術を研究している会社が日本のトヨタ（世界最大手の日本の自動車メーカー。単一メーカーとしては日本最大で、世界各地に拠点を有していると同時に、トヨタグループの中核を占める）である。「2013年1月、ラスベガスで開催されたCES（において、自動運転技術を備えたテスト車両を展示している。また、米国ミシガン州や静岡県東富士研究所のテストコースにおいて実験走行を実施している。試作車の目的は、自動運転を目指したものではなく、安全の向上に役立つ技術の確立をテストするために製作したものと説明されている」と言った。

3.4 自動車運転システム技術のメリットとデメリット

最後に、Lさんが感じたメリットとデメリットについて以下のように答えた。まず、メリットとしてLさんが考えられるのは自動車運転システム技術による交通事故の減少することだ。交通事故の回避能力は自動運転車に求められる必須のシステムだ。今発生している交通事故の主な要因はドライバーの認知ミス、つまり運転手の判断ミスや居眠り運転、操作ミスといった運転手の心身の状況によるものがほとんどだ。自動運転車が完全に普及すれば交通事故のほとんどは起こらないかもしれないし、高齢化の進む先進国では特に効果の高いメリットだと言った。そして、デメリットについてLさんは事故が減るはずの自動運転車でも避けられない事故が起こる可能性もある。そうした場合の責任の判断が運転手なのか、あるいは自動運転システムにあるのか現在のところはっきり決まっていないと言った。

4. 結論

私はLさんと自動車運転システム技術の現状からメリットとデメリットまで話し合っ、以前より自動車運転システム技術に興味深くなった。なぜかという、Lさんと話し合いの間に、自分自動車運転システム技術という分野をもっと調べなければならぬ、調べるたことにより、それについての情報や知識を得ることができ、メディア情報学科の私にとっては非常に役に立つと思う。

また自動車運転システム技術の登場で、私たち利用する側には様々な利点がある一方で、それによるデメリットを危惧する声も上がり始めてることも分かった。

5. 授業の感想

最後にこの授業を通して、メディア情報学科に関するのテーマだけでなく、ほかの学科に関するレポートも見ることができるし、話し合うことにより、新たな意見やアドバイスなどのコメントをしていただき、いろいろな学科の視点から自分のレポート完成するのが非常に勉強になったと思う。また、自分が将来何を研究するのか、どの部分の知識まだ足りないのか、この授業を行いながら、昇進することできると思われる。

テーマ：政府によるネット配信の制限に対する考察

一．動機文：

まとめ：

近年、中国におけるアニメの放送は、昔と比べてみれば、著しい進歩がなり遂げた。「BILIBILI」動画、「YOUKU」動画「TUDOU」動画の努力によって、中国でも、月額や無料のサービスで、著作権のある海外のアニメを見ることができるようになった。これが、一見望ましい状況だが、実際そう単純ではない。著作権を海外の会社側から買い取ったといっても、文化部（中国において、メディア内容を監視する部門）に命令され、放送をやめる事例も多くある。これは、また、ファンサブなど昔の問題を再び起こした。愛着を持ったアニメが見えなくなった視聴者たちが、しょうがなく、動画配信サイトで、アニメをダウンロードすることは今でも多い。これは、著作権の保護における重大な課題であると思う。

理由：

簡単に言えば、私はアニメが好きだから。アニメに関わる事象なら、思わず関心を持つようになる。私は、小学生時代からアニメを見始めて、今まで続いている。換算すれば、二十年の経験がある。この長い時間を遡ってみれば、数多くの作品の名前が浮かべる。大勢の人にとっては、アニメは確かに子ども時代を彩り、楽しんで過ごすための役割しか果たさない。ところが、私にとっては、アニメは単なる娯楽用の道具だけでなく、私の世界観にさえ影響をもたらした。アニメを見ることを通して、自分が人間関係のあり方や、人生の生き方など、様々な見聞を受けた。

例えば、自分が今までもっとも好きなのは「CLANNAD」というアニメである。このアニメは主に学園アニメのジャンルだが、高校から卒業からの就職活動を経て、結婚、子育ての話まで全部含めている。この中で、幾つかのエピソードに分けて、主人公を巡る親心、友情、恋愛の話は大変感動だった。特に、家族の絆について、全篇に渡り、語っている。主人公は一人親の家庭で育った立場から、自分が結婚して、父親になった立場まで転換して初めて、寂しくても、忙しくても、自分をここまで育てた親心に感謝の気持ちが溢れたシーンは今でも強く印象に残っている。影響を受けた私は、未来の未知の家族生活に憧れを持つようになった。また、何かを決める際、単に自分の立場を考えるだけでなく、家族や、周りの関係を一緒に配慮してから、答えを出すようになった。アニメを観ることは、ここまで私の考え方を影響するとは思わなかった。

前記のように、もともと著作権を得て、放送し、視聴者たちがコメントしながら、楽し

めるアニメが、ある規制の原因で放送不能になるのが非常にもったいないと思う。これは、アニメ産業の強い日本と、大きな違いがある。日本では、様々の手を打つことで、暴力やアダルトシーンを含めるアニメの放送も認められる。暴力やアダルトシーンは、もちろん、思春期の青少年には、多少たりとも、悪い影響を与えるのだ。しかし、幾つかのシーンだけで、アニメ全部をアダルトや暴力アニメのジャンルに入れるのはおかしい。中国では、アニメに対する観念は未熟だ。私は高校や大学の時にアニメを見た場合では、説教されることが多かった。これはまた普遍的な現象だと思う。つまり、中年以上の大人たちが、アニメを見ることは子ども時代のことしかありえないと思う傾向があるのだ。この思想が、アニメの放送の管理に関わる文化部に馴染めば、当然、暴力、アダルトシーンの含む内容の放送は許されない。もちろん、自国アニメ産業を守るための説もありうる。しかし、本当に製作が精良で、シナリオのいい作品は、このような原因で視聴できない、あるいは、視聴できるが、製作スタッフはリターンできないのはアニメ政策側にとっても、アニメを見る視聴者側にとっても、理不尽な話と思う。

したがって、中国におけるアニメのネット配信をより人間的に改善したいという気持ちで、このテーマを取り組もうと思う。

二. 対話相手について：

今回のテーマについて、話し合いの相手は、一年生のゼミのクラスメート沢田さんだ。彼は、アニメ産業の発展に興味を持って、一年生の進級レポートに、アニメの聖地巡礼がいかにか地活性化に貢献するのかについて、研究を行った。その時、彼とアニメ産業の話し合いを通して、彼は産業のあり方について、熱心が非常に高いことがわかった。私今回が研究したいテーマは、彼が関心を持っている部分に重なる部分があるので、参考になれると思って、今回、彼と話し合うことが決まった。

三. 対話結果：

1. 概要：

5月26日、私と沢田さんはコモンズで対話を行った。対話の時間は、約80分ほどである。

2. 内容：

対話から、沢田さん私のテーマの動機に、同感した。沢田さんによると、彼は友たちに勧められて、アニメを見始めた。見た後の感想について、沢田さんが「ここまで、すごいと思わなかった」と言った。「アニメを観る前に、あれは所詮レベルの低いものと思い込んでいたが、見た後、自分の価値観が翻されたように、一変した。そして、自分が単にアニメを見て終わるというパターンではなく、アニメをより詳しく知りたい気持ちが生じた」と沢田さんが強調した。これをきっかけに、彼は、様々なアニメのイベントや、声優見学まで参加し、アニメの事業に関わりたくなった。彼は、制限の原因で、アニメを見れなく

なるのもったいないと思うほか、日本と海外のアニメファンの好みが違うため、たまたま、日本に人気のないアニメは、海外に大人気を得たとしても、国内の人气が中途半端から、海外への宣伝やマーケティングに疎かにした結果、海外により評価を得るかもしれない作品は、そのまま国内に反響もなく消えてしまうのもったいないと思っている。

次に、中国におけるアニメの内容に対する制限についで、私は日本はどういう状況でしょうかと沢田さんに訪ねた。沢田さんは「昔の日本でも、そうだった」と答えた。沢田さんの話によれば、昔の日本も、アニメに対する制限が厳しかったという。「特に1960s頃に、大人たちが思った内容の不適應なアニメは世人の輿論を買って、極端な話だけど、タバコを吸うシーンもモザイクでリメイクされた」ち沢田さんが強調した。その後、アダルトや暴力など不健全なシーンを含むアニメ業者と放送局の間に、様々な手を打ちながら、規制が緩やかになり、現在の深夜アニメなどの形で私たちに見せるようになったつまり、アニメ大国の日本も経験したように、アニメの事業に、本気モードに入ったばかりの中国業者にとって、政府による放送制限の時期も経ないとはいけないであろう。

また、現在の日本世論は、アニメのシーンを模倣して起こした違法などの事件をアニメの業者だけに責任を問うという現象に対して、沢田さんも不適切だと思う。沢田さんが「全部の責任をアニメ業者にまるなげするのは理不尽だ。子どもが自分で何かいいか、悪いか判断できないから、親の出番があるのだ」とちょっとした憤慨の顔を浮かべて言った。

3. 自分が思ったこと：

動機の部分には、自分がアニメを見るエピソードを書いたが、沢田さんとの対話をしてみれば、やはり不十分だと思う。沢田さんが自分の体験を話した時、いつ、どこ、どのようなアニメを見たのかだけの話ではなく、そのアニメを見た後、自分にどのような影響を与えたのを具体的に且つ情熱を持って教えた。話を聞いた後、自分がアニメを見た後、気持ち、考え方の変化を本文に付け加えた。また、沢田さん今、アニメ業界ぼボーダレスを目指している。ある意味で、私もその壁を破そうと思ひ、努力している。今回の対話を通じ、自分のこの気持ちがより確実に確かめた。

四. 結論の見通し：

私は今でもアニメを観るのが好きだ。すべてとは言えないが、人の人生に影響や共鳴をもたらす作品がかならずあると確信している。その作品は、小さく言えば、人を楽しめたり、悲しみを忘れさせたりすることができる。日常の生活の中、友人同士の話題になり、関係を推進も可能だろう。大きく言えば、暗闇の中の一筋の光のように、道しるべとなり、進みの方向を導くことさえできると思う。動機の部分にすでに書いてあるように、自分はその作品見てから、家族に関する考え方が変わった。このような作品は主観的な原因ではなく、放送制限などの客観的原因で、観ることができなければ、非常に残念極まりないである。現在、中国の大手ネット動画配信会社は、モザイクをかけるなど手段を通して、制限による視聴者への損失をある程度減輕させたが、「アニメを観るのは子どもなのだ」とい

う先入観の壁はまだ根強く聳えてる。子どもと成人が観るアニメを区別しなければ、問題の解決にはたどり着けないと思う。

五. 授業の感想：

まず、この秋学期の月曜日の授業を通して、自分が努力したいものをより明確に把握できた。著作権に携わっている教員が退職する予定があるという節があるが、牲川先生を始め、沢田さんなどと対話をすれば、自分がどこに注目したい、研究したいのかわかるようになった。また、授業中に自分のテーマを披露するような仕組みは、自分の動機を固めることは元ちろん、それぞれ考え方の異なるクラスメートから、貴重な意見も得られる。

町に新たに共存する不動産

チョン ヒジョン

1. 動機

私が興味を持っていることは、グローバル不動産取引やディベロッパーである。何年前に、家の景気が悪くなり、不動産を維持することができなくなり、親から不動産を処分した。そのとき、不動産の景気も悪くなり、売ろうとしても売れなかったり、不動産を買った値段より、不動産の値段は2~3割下がり、危機があった。親が持っている不動産は、担保として、持っていた不動産が全部つながって、破産までの危機があった。そこで、親は、媒介する業者から外国人に売ったら、どうかと進められ、外国人に売った。私はそのとき、不動産について、興味を持つようになった。国際不動産取引や、不動産景気などを調べて、不動産に関連していることを勉強するようになった。しかし、外国人が国内の不動産を投資は、国内不動産の景気はよくなるが、投資した不動産の商圈や町の商圈が崩れることがわかった。理由は、家賃が上がる可能性もあり、複雑な問題が起きる可能性があるためだ。

そこで、私は投資されたところの外国人投資家、国内投資家、商圈の人々との共存できるようにしたい方法がないかと思った。新たな町を開発ときに、最初から共存できるようにしたらどうかと思った。そこで、ディベロッパーになり、国内人と外国人が共存できるような町を作りたいと考えた。たとえば、最近、韓国に来る中国の観光客が増え、有名な観光地の近くに、中国人が運営するゲストハウスが増えてきた。確かに、母国の人が運営するところにいったら、他のところよりは、安心して考えられる。このように、安心して観光することもできるし、地域の活性化もできると思った。

また、ディベロッパーになるためには、不動産に関する資格が必要であると考えられる。ディベロッパーは、不動産関連商品開発や企画をはじめ、設計及び施工、マーケティングなどの不動産開発の全過程を遂行する業者及び人である。開発、再開発するためには、専門知識や資格などが必要である。そのため、不動産に関する資格は、法律が多く関わることがわかり、法律に興味を持ち、勉強するようになった。

2. 話し相手の紹介

私が紹介する人は、ノブさんという人物である。ノブさんは去年ホテルに泊まった時に、ホテルのラウンジで出会った人である。そのときは、ノブさん泊まったホテルの管理の関係できた。そこで、ノブさんと親しくなり、ノブさんが不動産業に勤めていることをわかった。今でも、不動産の関することをアドバイスをもらったり、質問したりしている。ノブさんは、国内と国外不動産取引の仕事を行っている。国内にいる外国人のための一般仲介もやっているが、香港、中国、台湾、韓国などのアジアのお客さんに国内物件を媒介したり、国外物件を国内人に媒介するなどの仕事をしている。私がやりたい仕事似ていて、参考になると思い紹介する。

3. 話し合い結果

話しは、ノブさんの家で食事をしながら、3時間くらい話した。ノブさんと会って話してみた結果、自分の理想とした町を作ろうとしたら、国境を越えた考え方も重要とされることがと、コミュニケーションの能力が重要されることが分かった。まず、国境を越えた考え方は、新たな発想であった。自分がしたいことは、ある町に再開発し、外国人の文化も入り外国人と国内人と共存するとしたら、国境を越えた発想が必要とされないかと思われた。単なる町作るとき大体国内人の向けが多いが、新たな町を作ろうとしたら、国境を越えて共存するためのアイデア必要ためだ。そして、学生の時に、法律の知識学び、不動産業の経験があ

ったほうが良いとおもった。また、公務員になったほうが良いが、外国人なので、計画などをやる公務員はなれないため、理想なことをしようとしたら、コミュニケーションの能力が必要とされると考えられた。公務員とまちの市民などを説得しなければならないためだ。町の人々は考え方が人それぞれ違うためだ。ディベロッパーは、不動産に関する知識と複雑な問題を把握し、理解して発想することも重要ではないかと教えてもらった。知識があつて、発想をもっているとしても、最後にはコミュニケーションが重要であることが分かった。ノブさんが地域活性化するための事業をするとき、理解してもらうことがなかなか難しかったといわれた。町の中に商圏の建物などを計画したが、住民の反対も多く説得させるのがなかなか難しかったらしい。今回の話し合いで、自分の方向を詳しい計画を立てて学生生活を送る必要があると考えた。そして、現場の体験をしたいと思い、ノブさんが通っている会社にインターンシップに行くことにした。会社ではパートを分け、グループで活動するらしいが、そこで、業務をみて、聞きたいことを聞きたいと思った。

4. 結論

結論として、自分がやりたいことは、ある町にの再開発開発、地域活性化するための外国の資本がはいる、国内人だけではなく、国内に住んでいる外国人などを参加させ、地域活性化および、町の中で新たに共存させることだ。しかし、自分がやりたいことを確認するために、私は不動産のインターンシップすることにした。ノブさんは不動産の会社によって、経営戦略の違いを教えてもらった。夏休みと冬休みに、それぞれも不動産の会社や信託業の不動産の会社にインターンシップを応募することにした。そして、外国の文化を調べてみようと思った。外国人と話し合うためには、外国の文化を知るべきではないかと思った。日本語の能力もさらに、良くなるために考える必要ではないかと思われた。会話ができて、高度な話をするためには、もっと日本語うまくする必要と感じた。また、この授業とノブさんの会話で、自分がもっと、計画的にするべきだと思った。

5. 授業感想

今回の授業で、私は、改めて自分がやりたいことを確認した。最近、学校の授業や資格の勉強で、忙しくなり、自分がやりたいことを全体的にシミュレーションすることがなかった。私は、考えたことを全部することが全部はできないけど、シミュレーションすることによって、自分の夢を追いかけることができると思っている。今回の授業で、自分の理想ややりたいことを再確認できた。この授業では、すごく良かったことは、大学で自分の進路や自分がやりたいことを考えるようにすることである。留学生の向けの授業だが、このような授業は大学の授業でなかなかないと思った。そして、他の学生の意見や他の学生の発表を聞き、参考することができた。私の場合は余さんのコミュニケーションと都市計画の発表を聞き、自分がやりたいことにはコミュニケーションと都市計画が重要ではないかと考えられた。ディベロッパーになって、自分がやりたいことには都市計画も重要だが、外国人投資家と国内投資家や商権の人々と共存するためにはコミュニケーションが重要されると思われた。私はコミュニケーションについても研究する必要があると思われた。

この授業では、なぜ自分がやらないとだめかも動機として重要だが、その中で自分の理想の動機も重要だと思った。自分がやりたいことをは、今でもやっている人もいると思うが、自分がやりたいことが、今の問題を解決するの力にしかないと思った。自分のやりたいことの理想として考えること重要だと思った。あるきっかけとして、やりたいことを決めることも重要だが、自分の理想や想像することもやりたいことで役にたつようにすることも重要ではないかと思った。想像力として今ない問題や必要されることを予測することも重要だと思うためだ。

都市と近代史

1. 動機

世界の経済を発展するとともに、人間が美しさについての意識も変わっている。産業革命、第一次世界大戦や第二次世界大戦のような世界中に起こったことは、生活方面（例えば、服装など）に影響を与えただけではなく、社会環境にも強い影響を与えた。建築はその中の一つの重要な例として、研究したい。

都市政策学科に入った私は、特に建築の方面に興味を持っている。様々な歴史を持っている建築を見て、その中の魅力を感じながら、時間を経つとともに、建築のデザインの変化にも気づいた。子供の時、よく両親から、中国のさまざまなところへ旅行に行ったことがある。特に記憶に残ったのは瀋陽、ハルビン、青島などのところだ。世界大戦のときは、中国が侵略された国として、様々な国の文化を受け入れたことがある。青島は「八代関」というところがあって、その中に、ロシア、英国、フランス、ドイツ、アメリカ、日本などの20か国ぐらいの建築を集めている。旅行で刊行するときは異国の建築デザインとなんで中国にこんな多くの異国の建築デザインが融合しているかということに興味を持つようになった。瀋陽は昔の満州国として、日本式の建築はよく見える。ハルビンはロシアと近い都市として、ロシア式の建築が多い。特に「ソフィナー教堂」という建築のデザインが大好き。この建築のデザインはどうやって中国式から、グローバル化になったのかを考えてみると、世界中の重要な変化が様々な国の社会環境に影響を与え、人間の思想や精神を変ったということが理由になる可能性が高いと思っている。世界大戦で侵略された中国、韓国、バルカンなどの国は、侵略された同時に、侵略国の文化や精神も受けられさせた。ですから、建築にも当然に影響を与えたと思った。

それで、現在のグローバル化で、国々の文化や精神の交流も頻繁になっているし、本国以外の国のいいところも勉強し、受け取っている。近代の新たな建築形式も多く出てきている。その過程の中、具体的な変化も研究してみたい。

2. 対話相手の紹介

対話相手は同じ建築に興味がある徐さんだ。彼は建築に関する本をすごく読んだことが

あって、私がこのレポートについて、質問があるとき、全部彼から回答してもらった。現在、彼は国公立大学にの理工学部を目指して頑張っているけど、私より、建築に特別な見解がある。同じ大学じゃなくても、すごく助かることがある。結構長い時間の友達だから、私のことははっきり知っている。言いたいことははっきり言わなくてもわかるほど、対話するときも相手の思想が理解です。建築にもある分野に同じ意見を持っているから、彼が私の対話相手に決めた。

3.対話相手との対話結果

まず、私と徐さんの対話した内容の概要から紹介したい。

- ◆ 建築のデザインと時代の関係
- ◆ 建築のデザインと経済の関係
- ◆ 建築のデザインと歴史の関係
- ◆ 将来世界の建築発展方向

概要は以上だ。以下は私たちの話結果だ。

私たちは、大阪の梅田で散歩し、そちらの辺の建築を見ながら、対話をした。

まず、私が自分の観点「建築のデザインは時代が変わるとともに、変わっている。」を述べた。彼は私の観点を聞いてから、時代の変化や人間の審美の変化ということは、建築でサインに影響を与えることはもちろんだけど、そこだけではなく、経済の発展や政治の変遷にも影響を与えられたと答えた。

私が彼の観点を考えて、「建築のデザインと経済はどんな関係があるか」を質問した。彼は阪急ビルを指しながら、答えた。「このビルのような、高層建築は現在の経済を発展の当然の結果だ。経済を発展するとともに、人口の増加で、工業や商業に積極的な影響を与え、工業や商業の発展にも促成している。人々は土地の利用率を求めている。特に梅田のような都市の中心商業圏、土地の利用率は必要だ。ですから、都市の形式も昔の低い建築から、現在の高層建築に変わった。」こちらの答えで、彼の観点は私の目が広がった。

ですけど、私が気になったの、近代史の中建築の変化、特に前書いた瀋陽やハルビンなどの建築形式の変わることはまた彼の意見を聞いた。彼は建築デザインと歴史の関係は私とほぼ同じで、侵略や地区相隣で影響を与えられたと答えてもらった。彼も「1980年ぐらいから、建築の発展方向は単一的な影響を与えただけではなく、やはり自分の国の発

展需要にも重要な比率を占めている。

最後に、私たちは「将来世界の建築発展方向」について話をした。私たちは同じ観点で、将来の建築は必ず体かところから地下の奥まで土地利用を求めると考えている。現在地下の利用は地下20メートルぐらいまで利用している。将来は新しい技術で、地下の空気や陽光の問題を解決して、また奥まで利用するはずだ。それで、地上の方は高くなるけど、建築力学か考えてみると、空までの建築はやはり無理だ、ですから、空中の横発展も必然な傾向になる。何百年のあと、空に飛べる素材が探せれば、飛ぶ建築までもいけるかなあ都想像した。今から見ると不可能だけど、将来は実現になる可能性はないとは言えない。

以上が、徐さんと私の話し合いだ。

4. 結論

研究テーマ「都市と近代史」について対話した上で、以下の結論になる。まず、建築の発展史の中、グローバル化はまだ流行っていないときに、隣国や国々の交流の頻繁で国々の文化は交流して、建築デザインに影響を与えた。その上で、本国の伝統的な建築形式を変わらせた。建築の発展は単一的な影響を与えられるだけではなく、経済や世界グローバル化にも影響を与えられた。次に、循環型社会基盤の構築に寄与し、省エネルギーと資源の有効活用を図り、地球環境の維持向上に寄与するというのもちょっと考えてみたい。現在人口の増加と人々が土地利用に求めることで、循環型社会は重要だ。それで、現在の世界中に、グローバル化で建築の形式は同じ方面に発展しているけど、地域と場所の個性を尊重し、それぞれの地域で育まれた固有の歴史・伝統、文化等の地域資源を継承し発展させることも重要な課題として研究したい。今回の研究テーマで、単一な内容を考えたけど、やはり世界の多様性で、この一つ方面だけではなく、このテーマと関係があるのも気になって、もっと考えてみたくなった。

5. 感想

今回の話を通じて、話し相手じょうさんの考え方ははっきり受け取って、建築発展史の中で、国々に互い関係で、各国に影響を与えたということがわかった。それで、現在社会に存在している統一的なデザインはグローバル化の必然的な結果だけど、まだ自分の特別性を保持する必要がある。また、将来に建築はどんな方向へ発展するかもちゃんと考えた。最後に、初めてこのようなまじめに友達と話すことで新しい友達の面貌を知り合った。すごくいい経験だと思う。自分が理解したうえで、他の人の意見を聞くことはほんとに大きく助かるということがわかった。

コミュニケーションと都市計画

余舒敏

1. 動機文

私が小さい頃によく親戚の家や遊びに行ったり、止まったりしていた。いい思い出がたくさん残った。しかし、今の中国は少子化を向かっている。一人っ子政策で子供は一人しかいない家族が多い。そうすると、親戚も減っていく。もし私と同じ世代の人が子どもを産んだら、子どもと血がつないでいる親戚はほとんどいない。親戚の家で遊ぶこともできなくなる。また、インターネットの普及により、人と人のコミュニケーションも減っている。以前、引越する際、お菓子を持って、近所のひとに挨拶するのは普通だが、今は少なくなった。子どもも大人も外を出ずに、直接に人と交流することが減っている。

私は人と人の間のコミュニケーションが大事だと思う。私は日本に来たばかりのとき、日本について全然知らない。しかし、アルバイトをやり始め、日本人とのコミュニケーションする機会がどんどん増えてきた。店の人が日本についてたくさん教えてくれた。また、私が困ったことがあったら、助けてくれた。また、私はアイドルがとても好きで、コンサートを見に行くことが多い。しかし、周りにアイドルが好きな人は一人もいない。いつも一人で行った。コンサート会場の外を見ると、ほとんどの人は友たちと一緒にだった。その時から、私は人と人のコミュニケーションの大切さを感じた。しかし、私は自らほかのひとに話しかける性格ではない。もし、他の人に話しをかけて、断れたら、とても恥ずかしいと思って、二度と他の人に話をかけなくなる。会場外は人と人を交流しやすい場所があれば、私は他の人に話しをかけられる。そうすると、私のようなほかの人としゃべりたくても、話しかけることが苦手な人では、簡単に知らない人とコミュニケーションが取れるだろう。しかし、そういう場所はなかった。

今の町では、高層マンションがどんどん建てられて、生活も便利になって、人と人の間でコミュニケーションをとることが難しくなった。私はいま関西学院大学の学生マンションに住んでいる。そこで住んでいる人が全員関学生である。しかし、毎回家を出て、他の人と会ったときに、ほとんど挨拶さえもなかった。私は人とコミュニケーションをとることによって、ストレスの解消にもなると思う。中学校や高校のとき、友たちとしゃべると、不愉快なことも忘れられる。また、今多くの会社は上手にコミュニケーションがとれる人材を求めている。私はそういう施設があれば、そこでコミュニケーション能力を向上することもできると思う。それで、私は都市計画を考えると同時に、どうやって人と人の間のコミュニケーションをうまくとることについて研究したいと思う。

2. 対話相手について

今回、私の対話相手は、私と同じアルバイト先で働いている吉塚さんである。吉塚さんは40歳くらいの女性である。私は吉塚さんと5月31日にアルバイト先に1時間ほどを話した。吉塚さんは昔東京で就職していたが、結婚した後、三田市に引っ越した。吉塚さんから聞いた話によると、結婚は引越しのきっかけだが、最も大事な理由は東京で住みにくいということである。吉塚さんは鹿児島出身で、東京で就職するときに、友たちはあまりいなかった。しかも、周りの人は仕事で忙しいので、話す機会が多くなかった。東京にいる間あまり楽しくなかった。また、以前一緒にアルバイトをした時に、吉塚さんが自分人とコミュニケーションをとるのが大好きで、このアルバイトを選んだと聞いた。また、前

吉塚さんからつい最近引越したと聞いた、吉塚さんを対話相手に選んだ。

3. 対話結果

まず、私は自分の意見を述べた。それで、吉塚さんがちょうど最近引っ越したが、まだ隣の人と挨拶していないを言った。理由を聞いたら、隣の人がいつ家にいるか、また、相手が忙しいときに邪魔したら悪いと答えた。

それで、私がマンションの中や住宅の近くにこういう無料でみんな集める施設があったらどうだと提案したら、吉塚さんが「そうしたらとても嬉しい。私は引っ越したばかりだから、近所の人全然知らない。もし、そういうところがあったら、私は普通にいくし、近所の人と話せるし。とても便利だと思う」と言った。そこで、吉塚さんからどうしてあなたがそういう施設を作りたいかを質問された。そのとき、私は一人暮らしなので、コンサートを見に行くときにずっと一人だし、食事をするときにも一人で多かったからと答えた。また、私は外国人なので、毎回他の人と対話をするときに、自分の日本語がおかしくないかとか文法は大丈夫かとかを心配している。もし、そういう施設があったら、私は普段にもそこで日本人と交流することができるので、日本語の勉強にもなれるから。そこで、吉塚さんは「私にも中国語が学べるからね」と言った。

吉塚さんはこどもがいる。引っ越したので、子どもも転校しないといけない。しかし、こどもが人見知りで、クラスのことうまくいけるかどうかを心配し、自分も今のママ友と順調にいけるかどうか分からない。私も小学校のころ、引っ越したことがあった。そのとき、転校して、周りに知らない人ばかりで、授業の休憩のときやご飯を食べるときなどほとんど一人だった。私のお母さんも心配していた。この後、吉塚さんが「私は急いで引っ越したから、一番近いスーパーとかおいしい店とかどこにあるのも全然分からなくて、もし、家の近くにそういうコミュニティが取りやすいところがあったら、普段に子どもも自分も周りの住民や学校の人と会ったり、食事したりして、そこから、いろいろな情報ももらえやすいと思う」と話した。

最後に、吉塚さんは私に1つの問題を指摘した。「ユーさん言ったように、そういうところを作るのがとてもいいと思うが、作った後に、使う人はそんなに多くないと思うよ。みんなは仕事が忙しいし、育児の大変だし、なかなか時間がないから」と吉塚さんが話した。

4. 結論

吉塚さんと話した後、私はやはりそういった人の間でコミュニティが取りやすい施設を作りたいと思う。確かに、吉塚さんが話したように、私が考えた施設を作った後に、使う人がいるかどうかという大きな問題があるかもしれない。しかし、私のように、他のひとと話したくても、自ら話しかけるのが苦手で、話しかけても断れるのが怖い人にとって、そういうところがとても便利である。私は最初にそういうところに行く人があまり多くないと思うが、その後、そのメリットが感じて、行く人が増えると思う。

また、私は中国にいたときにまだ感じないが、日本に来て、周りにほとんど日本語しかしゃべらない人で、外国人という感じがとても強い。周りの人に溶け込みにくいを感じた。また、自分から話しかけるのがも恥ずかしくてなかなかできない。そういう場所は日本人だけではなく、私みたいな外国人にとって、とてもいいと思う。もし、家の近くにそういう施設があったら、少しでも今の状況を変えられるかもしれないと思う。

吉塚さんの話を聞いて、自分の足りない部分が分かった。今後、私は都市計画を考えると同時に、どうやって人と人とのコミュニケーションをうまくとることについて研究す

るだけではなく、その上、そういう施設の必要性にも考えたいと思う。

5. 感想

私は最初に自分がやりたいテーマが全然浮かべなかったが、授業を受けて、先生の意見を聞いて、自分がやりたいテーマを見つけることができた。また、クラスみんなのコメントを聞いて、自分が足りないところも分かった。そして、私は初めて吉塚さんと対話をするときに、二人は普段のように話していたが、先生が授業で対話についての意見を聞いて、対話の方向が分かって、もっとうまく対話ができる。

1. 動機

私は外国人留学生として、日本に住んでいる。私と同じ、日本に住んでいる外国人を中心に、震災があった時に様々なことに困っている外国人がどうやって命や生活を守れるか、外国人が困らないようにするためどうすればいいかということは私たち外国人にとっては非常に手伝ってくれたことだと思われる。

私は何回に震災防災センターに行ったことがある。最近では阪神淡路大震災記念・人と防災未来センターに行った。そこで大震災の地震破壊のすさまじさを映像で体感し、震災後の町を崩れた姿と被害状況の写真資料を見てから、心臓がドキドキして地震の怖さを感じられた。地震による 兵庫県 の沿 海部 とその周辺地域で大きな被害が発生し、火災で多く家屋を焼いて破壊された。死者は 6434 名、負傷者 43792 人、24 万軒の家屋が壊れた。当時のような大きな被害をならないように、その大震災の経験と教訓で、防災と減災に力を入れることが大切だと思う。それは私が震災時に一般的な住民より力が弱い外国人を守れることを研究してみようと思っている理由である。

一般的に言えば、多く外国人は日本に住んでいるが、言葉を通じられないことと文化や生活習慣の異なることが問題になり、当地の人々とのコミュニケーションも少い。言葉の問題は外国人が日本人との交流の中にもっとも困っていることだと思う。ほとんど日本に初めて来た外国人は日本語を話せない。私が日本に来たばかりの時に、日本語も話せないし、住んでいる寮の周辺にもよく知らないから、一人が出る時に道が分からないことが多い。それで周りの人に聴いても、言葉が通じないので、実はどうやって行くかまだはつきり分からない。その時は本当に困っている。あるいは、普通の会話が話せるが、災害が来るとき使う言葉が応用できなく、大切な情報を得ることができない。まだ、一部の当地に住んでいる外国人は災害の避難知識がよくわからないし、防災意識も非常に低い、多く外国住民が避難施設の位置も分からない。万一に震災が起こったら、防災意識が低い外国人が大きな被害や混乱されるかもしれない。震災時に同じ日本に住んでいる外国人と私自身を守れるために、このテーマを選んだ。

震災時に外国人を助ける、命を守るために、まだ、震災時に言葉の問題が壁にならないように、今後はどう対応すべきかについて研究してみたい。

2. 対話相手について

私が選んだテーマについて、話し合いの相手は、同じ外国人留学生としての劉さんだ。彼女現在は九州の福岡県に住んでいる。今回の熊本大地震の時に、強烈な揺れるを感じられ、強い余震も長い時間に続け、怖くて二日に全然寝られなかった。彼女が住んでいる場所は震央の熊本県と大分県に近いから、地震の怖さを感じられた。劉さんの経験と震災に対する感受は私が研究したい内容に非常に役に立つと思うので、今回の話し合う相手は彼女ということが決まった。

3. 対話結果

対話は5月28日土曜日に一時間半ぐらいした。劉さんは福岡県に住んでいるので直接会えず Skype で話した。

対話の初めに、劉さんは当時の震災状況を簡単に紹介してくれた。4月14日の前震では、熊本県に9人が死ね、九州では約1000人以上を傷ついた。16日に震度7の本震と一週間続けている余震で死者は49人になった。多くな建物が倒れ、熊本と大分県を中心にある高速道路を陥没し、熊本県のある橋も崩れ落ちた。その話を聴いたら、私は地震のときに町の様子を想像できた。それで、劉さんに地震を来た時の気持ちはどうですかと聞いた。彼女はその時に、突然にベッドといすなどの家具を強く揺れ、机の上に置いてるコップとか全部倒れた。また、学校の寮は一時に停電した。後で回復してきたけれども、その時に本当に真っ黒で、すごく怖くてどうしたらいいかがよくわからない。その後、余震をずっと続け、たまにちょっと寝ていたが、ベッドが激しい揺れ続け、不安で、もう寝られなくなった。

それと、私は地震に関する避難知識と周辺の避難施設を知るか劉さんに聞いた。彼女は「日本語学校の時に、学校は何か月一回に地震避難演練をしたけど、大学に入ってから、そのような経験はない。自分が地震を本当に来たことが全く考えることがなくて、避難知識と避難施設もほとんど分からない。今では、日本に来たもう三年ぐらい、日本語をしゃべれるけど、もし日本に来たばかりの時に地震が起こったら、日本語を話せないから、今よりもっと怖いと思う。」と答えた。確かに、日本は地震が多発な国なので、日本人は小さい時から、新聞記事、両親または学校など様々な面から避難知識を教えてくれ、防災意識が非常に高い。逆に、日本に住んでいる外国人はそのような防災教育を受けたこともな

いし、地震の避難知識にもあまり関心を持っていない。それで、もし地震が起こったら、外国人は最も被害を受けやすいし、弱い群体である。特に日本に来たばかりの外国人は、言葉を通じなく、周りの環境もよく知らない。地震の時に大混乱を生じるかもしれない。

劉さんとの話し合いを通し、私は劉さんの地震経験から、日本に住んでいる外国人に対して、言葉と防災意識が低いことが大きな問題だと思う。

4. 結論

私は言葉の壁がある外国人が震災時に困らないように、命を守るために外国人に防災知識を伝える以外に、地域では外国人向けの防災教育や防災演練を行うべきだと思う。また、日本人と交流できる無料日本語教室を行い、日本語能力を高める以外に、知り合いながら助けられる人間関係を作る。現地に生活している多様な人々に繋がっている地域を作ることが大切と思った。

それと、皆さんはFM わいわいを聞いたことがあるか？FM わいわいは神戸市にあるコミュニティFM放送局である。そこでは10国の言語で生活、地域と防災情報などを当地に住んでいる日本人、外国人にラジオ放送する。特に、FM わいわい放送は国籍、人種、年齢などを限らず、当地に生活している多様な人々を共生し、互いに知り合いながら助けられるように続けている。また、特別なのは外国人にも理解できるように言葉を分かりやすい言い方に換える。神戸だけではなく、全国にそれぞれの地域もFM わいわいのようにコミュニティ放送を活用したら、地域と外国人が一体になる環境を整え、防災の取り組みを世界中に伝えることが大切と思った。

私自身として、今後では日本人または各国の人々との交流する機会を増やし、外国人向けのコミュニケーション時間や防災訓練を積極的に参加する。言葉の壁を外国人の生存に影響させないように、努力すべきだと思う。

5. 感想

授業の最初に自分がやりたいことが全然わからなかった。いくつかのテーマを頭に浮かんできたが、本当にしなければならない理由がないから、結局やめた。それで、授業ではみんなの考えと先生の意見を聴きながら、自分もちゃんと考えてから、やっとやりたいテーマを見つけた。しかし、初めに動機の部分が不足なので、先生がこのレポートを見てリクさんが書いたことが分からないと言った。そして、私はこのテーマが別の人では

なく、私しか書けない理由をよく考えていた。初めて読む人でも、このテーマをやらなければならない動機をはっきり分かるために、自分の経験と感想も含めてやり直した。それで、授業でみんなから研究したいことと動機をよくわかったというコメントをもらって本当にうれしかった。

残念のところは、対話する時に、もし話し相手の感想と意見を中心にして話し合いを進んだら、説得力がもっと高いと思った。

今回の授業に通して、自分が関心を持つことや学びたいことをよく分かった。レポートを進んでいる時に、研究したいことを考えながら、入りたいゼミも決めた。また、このテーマは卒論として書きたいから、また色々な資料を調べ、色々な人の意見を聞きながら、研究するつもりだ。

2 クラス

担当 横野 さゆる

禹廷炫(ウジョンヒョン)

動機文

私は韓国育ちで幼いころからかなり快適な都市環境で住んでいた。しかしながら、その都市環境ということの中で私は一つ疑問が湧いた。なんで住居空間としての建物は個性がなく、皆一緒の形をしているだろうと思っていた。必ずしもそうしななければいけないのか。それだけではなく、学校も一定の形から変わるものは全くなかった。それが自分にとっては大変退屈であり、それを変えてみせたいという考えを持つようになった。現代社会をみると、音楽もそうだし、食べ物もそうだし、最近ではフュージョンがはやっている。ここで言っているフュージョンは昔のものと現在のものを融合させることである。たとえば、韓国の音楽の場合、伝統的なメロディーと現代的なメロディーを融合させ、感情がもっと込められている音楽がたまに作曲される。また、食べ物の場合、キムチバガーのような西洋の食べ物と現代の食べ物が融合されている。今、ここで言っているフュージョンは一つの例に過ぎないが、それぞれ独特な個性があり、同じものばかりの繰り返しではないことがとても素敵である。

そして、実際インターネットで様々な情報を調べてみた。ギリシャのサントリーニ島やイタリアのベニスを見てみると、都市を作る際には、一つのコンセプトを決めて、それを崩さないように計画していくのがポイントだ。そこから、インフラや機能など幅広い領域のことも考えるべきである。特にここで注意しなければいけないのはどれだけデザインの良さがあっても、都市のインフラや機能がきちんと整っていないと、その都市は失敗を迎えるようになる。特に三田のウッディタウンの場合は、ある程度はコンセプトがあるし、綺麗でどのかな感じもあるが、結局アクセスの不便さや商店施設、交通、地理的位置など、一番基礎的なところが整っていないため、代表的な失敗作となる。

ヨーロッパの場合、同じような感じの建物が繰り返される場合が結構見つかる。もし、そのような感じで同じ模様の建物が並んでいたら、私は個性がある美しい都市だと思う。なぜかというところ、ギリシャのサントリーニの場合は、島全体がほぼ白い壁に青い屋根になっており、それが一つの美しさになっているからだ。もちろん、サントリーニだけではなく、一定の模様が繰り返される都市は多くあるが、それはその都市に足を直接踏んでみると、それぞれ違う特徴を持っており、長い歴史を経てそのような風景をしていると思う。もちろん、私もまだ行ったことはない。

それで、今回のレポートでは自分で思う美しい都市ではどのような都市があり、そのような都市にはどのような背景があってそのように形成されたのかについて研究したい。そこから、これから新しく都市をデザインするならば、どうあるべきかについて述べていこうと思う。そして、できることであれば、これから新たな都市を作っていく際にはインフラや機能、デザインなど、自分で考えられる要素をできるだけ全部入れて、論述を進んでいきたいと思う。なぜかというところ、これから都市を作っていくとしたら、デザインだけでは終わらないし、様々な必要不可欠な要素を考えないといけないからだ。

対話相手

この人は私と一緒に建築を勉強している友人である。対話相手として同じ建築に興味があり、お互い真剣な勉強ができると思ってこの人を相手として選んだ。逆に機会さえあれば、一緒に海外旅行を行ってみたいぐらいである。もちろん、都市についてそこまで専門家ではないと思うが、もし一緒に対話をするならば、様々な都市について調べることはできるだろう。そして、これについて勉強することで、互いの建築分野や都市分野に視野を広げることができ、もっと頑張るきっかけになるかもしれないと思っている。

対話結果

今回会話相手と現在、日本の都市景観の現状について話し合い、これからはすべき都市の姿は何だろうかについて語った。そこで、日本の現在都市の問題点について彼は「庭師に聞いてみたら、日本の建築物はバラバラすぎているため、都市にある庭を定理するだけで、街並みや景観が多少変わる。」と言った。そこから私と彼は共通的な事例をあげるようになった。新都市の失敗作である三田のウッディタウンのことだ。ウッディタウンの場合、特別な個性がなく、同じ建物を並んでいるだけだという意見が出た。私はそのようなところからもう少し発展させ、韓国の実家や前に住んでいるところについて紹介してあげた。特に私が住んでいる食寺洞の場合は都市自体が新築であり、居住のために作られた都市である。そのため、現代的な都市デザインが特徴ともいえる。私が食寺洞から受けた印象はかなり、コンセプトがはっきりしており、自然豊かさがあり、開放感があり、都市全体が統一感があるため、かなり理想的な都市だと思っていた。しかし、そのような都市にも関わらず、一つ大きな欠陥がある。それはアクセスがかなり不便ということだ。もちろん、自分の車を持ってあれば便利なところだと思うが、そうではなければ、大衆交通を使わざるを得ない。それで、一番最寄り駅まで行くためにはバスの待ち時間まで合わせてせめて30分を考えないといけなくなる。

それでは日本の場合、どのような都市がはっきりしたコンセプトをしているのかについて私たちは話し合った。その時2つの都市が出た。それは京都と横浜である。まず、京都の場合、観光地の周りは街並みが昔から京都に合った町並みを受け継いでいるような形を形成しているため、そのコンセプトがはっきりしており、都市から歴史を感じることができる。そして、そのような街並みが周りの風景に似合っている。しかし、その京都にも一つ短所があるとしたら、その歴史を感じられるような街並みの距離が短いということだ。京都の場合、大都市であるため、京都駅の周辺や拠点となるところは現代的な建物があって、京都のイメージには少し似合わないのではないだろうかと思った。

その次は横浜である、横浜の場合、港町であるため、そのようなイメージを活かしてはっきりしたコンセプトを町の中に入れた。私個人的には日本で一番コンセプトを活かした町ではないだろうと思う。そのようなイメージで実際観光産業にもかなりの収益が出ているし、アクセスも便利だし、都市としてあるべき条件をすべて揃っているのではないだろうか。

結論

これから我々が都市を作っていく際にはその都市に似合う感じで景観に注意を払うべきではないだろうかと思う。なぜかという、ただ住むのも効率性や費用を考えたらあることだと思うが、人は衣食住の中で住のことにかなり敏感であり、そこから生まれる考え方や効率性は長期的にみたら違うのである。それで、我々は新都市を作るならば、景観に気遣うべきだ。

また、何か都市計画をする際にはルールを決める必要がある。もちろん、行政によってルールは決まっているし、それぞれ違うが、それではなくて、一つの都市を計画する際に、コンセプトを考え、そのコンセプトにそったルールを作るのが大事ではないだろうか。今回、私が対話相手と話し合ったら結構、そのようなところに重心をおいて考えるようになった。

感想

今回の日本語3ではレポートをどうすれば、深められるのかについて学び、レポートを書く際にはどのようなところに書くべきかやどのようなテーマを設定すべきかが重要となってくるのかについて学ぶことができた。これから、様々な科目から出る課題でも、日本語3で学んだ内容に基づいてやっていく自信ができ、もっと質の高いレポートを書けると思う。

また、話し合いということが普段より幅広い考えができ、本当に自分がやりたい学問に興味をさらに持つようになった。

移民問題

カリキギョウ

1. 動機

私の出身地上海である。上海は現在中国の最大の経済都市だと思われる。有数の国際都市の一つとして、様々な問題が起きている。ほかの地域の人々は上海の給料がより高いと思っているので、多くの人々が上海に移動している。その結果、現在上海市区は人が非常に多くなり、一平方キロメートルあたりの人口密度は約 10,000 人だ。このように高い人口密度が環境問題を生み出したとともに、地元の人と出稼ぎ労働者の文化の違いが格差問題を引き起こしていると思う。多くの出稼ぎ労働者は教育や経済などが遅れている村や田舎から来ている。中国では田舎と都市の経済格差が大変大きいので、貧しい彼らは教育を受ける機会がなく、生活習慣も都会の人たちとは違う。都会の人に比べると、全く違う国から来た人のように感じる。私が上海にいる時もこの格差を強く感じる。例えば地下鉄に乗った時、一目で出稼ぎ労働者と地元の人を見分けることができる。大声で電話をしたり、席で横になったりしているのはほぼ出稼ぎ労働者だ。都会の人には驚くことだが、出稼ぎ労働者にとっては当たり前のことだとおもっている。この違いが上海市民の反感を買い、出稼ぎ労働者への風当たりが強くなった。ひとつの都市にもこのような人口流動がもたらす問題があるから、国と国の間の移民流動による問題がもっとあると言うまでもない。自分も外国人として、日本で三年間に住んでいる。上海と日本の生活経歴で移民問題を考えるようにはじめた。

現代社会では、グローバル化が進んでいるので、多民族の交流がより簡単にできる。ゆえに私は世界的な移民時代がもうすぐ来ているのではないかと思う。しかし、移民は簡単な人々が国境線を越えて移動することではない、アメリカを例として、世界最大の移民人口があるが、宗教衝突や黒人に対する人種差別などの問題もかなり多い。そのほかに不法移民という問題もたくさんある。日本には、今また移民することができないが不法移民という問題もずっと存在している。

良い生活を求めるのが誰でも持つべき権利だと思うが、法律を違反して移民するのがやはりよくないことである。例えば、中東アジアの戦争による難民がヨーロッパに逃亡している。難民とは、難民条約によると「人種、宗教、国籍、政治的意見などの理由で、自国にいと迫害を受けるか、あるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた人」を指す。難民として認められると、その国の国民と同等の地位を与えられる。一方、移民とは、仕事や教育、よりよい生活環境などを求め、国境を越えて定住する人を指す。したがって、難民と移民の違いが自国での迫害があるかどうかのみだと思われる。ドイツ大統領の呼びかけで欧連の国々が難民を受け入れた。これは人道援助だと思われるが、国民に対して、災難とも言えると思う。宗教や言語などの違いで昨年の大晦日にはケルンで集団窃盗・性的暴行事件が起きた。容疑者の半数以上は難民申請中だった、被害届は 600 件以

上であった。難民申請時の篩にかけると受け入れ後の処置が今早く解決しなければならぬ問題であろう。どうやって適切な移民制度を作るとどうやって移民がもたらす多文化の衝突などの問題をうまく解決するのは今世の中の国々にとって重大な課題だと思う。

2. 話し相手

上海大学の時の寮の友達と話し合った。あの時大学二年生まで一緒に寮で生活していたが、その後、私が日本で留学し、もう一人の友達がアメリカへ留学にいった。元々留学する気がない彼は、これをきっかけで卒業した後オーストラリアで留学しようと決めた。ゆえに今彼がオーストラリアで留学している。

3. 対話結果

まず、現在欧州の難民問題がどう思うかと聞いて、彼はやはり今ヨーロッパで実施されている難民受け入れが間違いだと言った。なぜかという、難民もちろんあるが、その中に経済移民という目的を持っている人が少なくない。彼達が難民受け入れを人生の変わる道として考えている。それだけではなく、ほかの形の偽装難民もあるそうだ。移民の条件が満たせないにもかかわらず、難民として申請したらこの国に移住することもできる。今ヨーロッパでこのような問題が起こっている。それに、イスラム難民の受け入れでテロ事件が起こる可能性が高まるかもしれない。例えば、今のフランスである。今年の自爆事件が前より多く起こって知る。だから、難民申請を真剣に篩にかけないといけない。次に、移民制度についてどう考えているのかと聞いて、彼はこれを評価するのがちょっと難しい。オーストラリアの移民制度を例として、彼が今技術独立ビザという永住ビザを取るために努力している。このビザはポイント点数制度によって審査されている。英語の成績や大学の専門と仕事の関連性などポイントを付ける項目である。ポイントを満した人しかビザ交換申請できないので、簡単では言えない。しかし、仮に投資移民のようなただのお金で移民できれば、様々な問題が起こるかもしれない。例えば、現在オーストラリアにいる中国人が多い。そして、多くの中国人わざわざオーストラリアに不動産投資にきる。だから、今英語がわからなくてもオーストラリアで生活ができる。中国人がいっぱいいるから。地元の人に対して、やはりたくさん中国人に包まれたら気持ちがよくなるはずだ。そして、資源も奪われている。ゆえに将来移民に反対の声が大きくなるかもしれない。しだからって、どのような移民制度が適切なのか簡単に決められない。ただ国々の国情に基づいて作れば適切だと思っている。

4. 結論

彼との会話で、やはり移民制度が厳しくなければ厳しくしたほうがいいと思うようになった。今まで見ると、ポイント制度が適切な制度だと思われているが、この制度もいくつかの問題点がある。例えば、25 から 32 歳の申請者が 30 点取れる。しかし、60 点超えたら

移民申請ができる。つまり、25 から 32 歳の人が残りの 30 点しか取れないと申請ができる。これはある程度簡単すぎると思う。その上で、申請した人の宗教背景や家族背景からこの人の移民申請を批准できるか真剣に審査すべきだ。それに、投資移民について、ただの資金の額で決めるじゃなくて、ほかの条件を加えれば投資移民の数と質がコントロールできると思う。以上の意見はオーストラリアの移民制度だけに対する。やはり友達の言うとおり、適切な移民制度はそれぞれ国々の国情に合わせて作られたものである。例えば、日本の場合は国内労働力が不足という背景があるから、外国労働者数を増やすために、今より緩和な移民制度を変更したほうがいいと思う。

5. 感想

友達との話で、今まで知らないもの知ようになった。でもこれは氷山の一角だと思う。移民問題は思ったより何倍も複雑な問題であり、各国の移民制度も一見でわかるものではない。その中に、最も重要な問題は多文化社会本当に作るべきか。つまり、移民を受け入れるべきか。現在の欧州の状況を見ると、移民のデメリットがメリットより多い。そのほかに、難民問題も今の欧州に悪影響を及ぼしている。そのため、イギリスが移民問題で EU から離脱した。ですので、それぞれ文化背景や宗教背景など違う民族が同じところが生活させて、多文化共生や新しい文化を生じるか、あるいは、文化などの差で争いが発生するか。その結果に興味深いですが、どうなるのかはつきりわからない。これから、この点について深く学ぶようになると思う。

メディアにおける日中関係

メディア情報学科 2年 韓遠会

1. 私がこのテーマを選んだ理由

現在では、日中関係は日本と中国両国の間で、しばしばよく政治課題として議論されている。そして、メディアというものが急速の発展に伴い、日中関係はどのような傾向があるだろう？ご存知の通りに、今の日中関係について多くの人はあまりうまくいかないと考えている。その原因を考えてみると、「日本の教科書問題」、「尖閣諸島の問題」そして「靖国神社の参拝問題」などの政治問題が日中関係をわるくする原因だと思われるが、実際には両国のメディアにおける報道の偏りという原因も含まれているだろうと考えた。

それゆえ、なぜメディアにおける日中両国に関する報道は偏っているという状況であるか、そして、偏っている報道で、両国関係はさらにどうなるだろうか、あるいはどのような解決策で、両国友好関係への損害を避けることができるのかとこれから検討したいと思う。

まず、なぜ「メディアにおける日中関係」をテーマとして取り上げたのかと言うと、先日インターネットである日本のニュースがきっかけとなったからだ。そのニュースは中国人が礼儀正しくなくて、わがままだと批判されているニュースである。それから、自分が「中国に関するニュース」というキーワードを入力して、調べてみると、中国をマイナスに評価する日本ニュースばかりだった。一方で、中国では、日本に不利となるニュースや新聞をよく耳にする。簡単に言うと、メディアにおける両国が相手のデメリットしか報道していないということだ。

次になぜこのような状況になるかと考えてみると、「片方の手だけでは拍手ができない」という中国の諺を思い出せた。つまり日中関係は今の情勢になるのは日中双方にとってはいずれも回避できない責任を持っているのではないかと思う。もちろん中国人留学生の私にとっては、日本人の方の日中関係に対する考えや心理など、詳しく知らないが、多くの中国の国民は日中歴史に対する態度は根が深くて容易に変えられないものである。彼らは自分の目で見たものではなくても、家族の先祖からの話を聞き、それに自分の想像を通して、日本人の方をよくない人物として描いてしまった場合も少なくないかもしれない。

どころが、両国関係にとってはどのような影響があるだろうかと考えてみよう。両国の国民たちは相手国に関する文化や習慣を知るためには、テレビ、ビデオあるいはインターネットなどのメディアを利用しながら、相手国の情報を手に入れるわけである。しかし、もしメディアにおける報道が偏るなら、相手国に行ったことがない多数の両国国民にとっては、大きな誤解が生じるのではないかと考える。このままで、思い違いを持ちつづければ、日中双方が様々な国際問題の解決に対して、他国の利益ではなく、自国の利益を優先に考慮することは当然の結果だと思われる。しかし、現在のグローバル化国際社会の中で、

国々の間で、お互いに利益を与え、共に利益を得ることは潮流になったので、自国の利益しか考えないなら、きっと今の時代に追いつけないのではないだろうかと考えている。

2. 対話の相手

名前は佐々木龍治と言う。IT会社で働いていて、香港とも取引している日本人である。会社でよく中国人の方と触れ合うので、中国事情に関心を持つようになり、たくさん中国人の友達と知り合いになった。それにおよそ五千年の歴史を持っている中国の伝統文化は貴重な宝物だと思っている彼は中国人の方から熱心的に中国語を学んで、中国の文化を身につけていて、日中友好関係をとても望んでいる人である。それで、日中関係というような問題を客観的に分析できるし、理性的な感想や考えを聞かせてもらえるだろうと思うので、佐々木さんを対話相手として話し合った。

3. 対話の結果

自分が書いた「メディアにおける日中関係」という文章を佐々木龍治さんに読んでもらうと、彼は冷静的にこの問題を分析してくれた。彼は「メディアにおける日中関係に関する偏っている報道」という問題に対して、国の政府及び様々な政治問題と関係があると思われたので、かなり複雑で、難しい問題だと考えている。実際にはなぜメディアにける日中両国に関する報道は偏っているのかと言うと、政府などの国家機関からのプレッシャーがあるという原因も存在すると考えている。たとえば、政府は自国の国際影響力を高めるためには、メディアに圧力をかけて、他国に不利となるニュースや新聞しか出版できないということである。そして、国民の支持率を得るために、メディアに事実を隠させて、視聴者たちを騙すという場合も少なくない。

どのようにこのような問題を解決できるのかについて、佐々木さんが二つの意見を述べてくれた。一つは、国自身は公平公正を原則として、自国のメディアに自由言論のスペースを与えることだ。というのは、新聞社などのメディア機関にプレッシャーではなく、自由言論のスペースを与えて、国民たちの心の底から最も真実な話を聞くことである。そして、自国に不利となることがメディアを通して隠されるのではなく、自国の不足を認めながら、積極的に他国のよい面を学ぶべきだ。このようにするなら、自国も成長できるし、国際影響力も高められるだろうと佐々木さんが考えている。

またもう一つはメディア本身でも公平公正の態度を持つべきだという考えだ。現在では、メディアの国際影響力が相当に強くて、一つの小さな不良言論があっても、国際間の紛争をもたらすかもしれない。もっと厳しく考えてみると、国際間のパートナー関係を破れる可能性があるのではないだろうか。したがって、メディアも国家機関からのプレッシャーをされたとしても、自己責任を持ちながら、公平公正の態度で真実の話しを流れるべきだ。インフォメーションのコミュニケーションの橋としてのメディアは政府と国民にどちらの方に偏ることではなく、両者の間のバランスをとりながら、中立の態度で物事を冷静的に分析した上で、それに関するニュースや新聞などを報道するなら、今の状況を少しでも改

善できるのではないかと思っている。

4. 結論

私は佐々木さんの意見に賛成すると思う。メディアというものは現代社会の主流として影響力が非常に大きいものである。それで、報道に対する考えや意見を他人に述べる前に、この報道は権威ある信用できる人物または機関からのものなのか、そして、その番組あるいは出版物は誠実であるとの評判を得ているのか、それともその情報筋に資金を提供しているのは誰かというようなことを自問しなくてはいけない。ニュース報道を何でも信じ込まないのは賢明なことだが、どれ一つ信用できないというわけではない。しかし、固定観念にとらわれないで、確かめてから判断することは一番大事なことだと思う。そして、現在の日中関係に対して、不満や恨みのこもった、あるいは非常に批判的な論調で書かれている場合には、それは攻撃であり、理性的な論議とはいえないだろうか。それゆえ、過激である態度ではなく、客観的に熟成する考えで、理性的に分析しなければいけないと考えている。

5. 感想

この授業で、メディアに関するレポートを書かせるのは本当によかったと思う。それを通して、メディア学科に入った自分にとっては、将来は、一体にメディアの何かを学びたいのか、そして、メディア本身は一体にどのような役割を果たしているのか、またメディア本身の意味を理解した上で、どうやって、自己責任を持ちながら、客観的に物事を分析できるのかというようなことをはっきりわかるようになった。日中関係というような政治問題に対して、国民の一員としての自分はメディアを通して、両国の間でどのように貢献できるのかとこれから検討したい課題である。できるだけ両国の関係をより親しみに慣れるように努力したいと考えている。

自分自身の研究テーマと今後の課題

姜待旭

動機文

私は、幼い頃から、パソコンに興味があった。パソコン以外にも興味を持った分野があるが、そのうちひとつは交通システムである。

私は韓国と日本を幼いころから行き来した。小学校から高校までの期間に日本で過ごしていたのは中学3年から高校卒業までの4年である。その4年間も鉄道、バス、道路といった交通システムに関して興味を持っており、パソコンや最新のテクノロジーにも興味があった。

高校2年生の時から国公立大学進学を目指していた私は、模擬試験の点数がよろしくなかったことで、文理のどちらに進むべきかと迷っていたが、都市のシステムを主専攻としたという理由で、大学や学科に進学したいと思い、理系の道へ進んだ。

しかし、他の学生よりかなり勉強不足であった私は、高校の先生に「留学生入試はどうか」と言われたので、留学生入試をすべり止めとして受けることにした。関関同立のほかいずれかの大学を調べ、条件に合致している大学が関学と他2校があった。私は迷わず関学に志願したいと言った。商学部や経済学部も考えてみたが、一度総合政策学部のホームページに訪れた後、総合政策学部に進学することを決めた。甘える気持ちもあったのか、自分自身の意志が総合政策学部の志願へと完全に傾いてきた。

総合政策学部のホームページで見たものは、都市政策学科の存在である。当時の私は大阪市立大学工学部都市学科が第一志望であったため、「都市」という単語が魅力的に見えた。今の私が所属しているメディア情報学科に対してそれほど「情報系」の要素が入っているとは思わなかったため、都市政策学科へ行きたいという気持ちがより高まっただろう。よって、都市政策学科へ行くことを前提に志望理由書を書いた。志望理由書を書くときに、「何を言いたいのがわからない」という先生の言葉を受けながら書いた。自分自身の迷いが最もわかりやすく出た一つの経験であった。しかし、面接まで都市政策学科に行くことを強調し続けた。

合格後、国公立受験のための勉強は進めたが、常に勉強不足であったため、点数は悪かった。ハードルを下げ、滋賀大学経済学部へ志願するも、前期後期両方落ちるという結果になった。ハードルを下げた時点で関学に行ったほうが良いという思いが高まる一方だった。

総政入学後、学部の授業のテーマの多さに驚き、高校の時に養った知識や教養が大学で応用できることに満足した。また、メディア情報学科の詳細を知り、実習までできることを知り、都市政策学科より魅力的であると判断した。まず、都市政策学科に入り、それを専攻することにある程度の反感があった。また、「パソコンをいじることが好き」である自分と、最新のテクノロジーに興味深い自分自身だったと思ったため、春学期の後半からメ

ディア情報学科へ所属したいと思うようになった。パソコンを触ることが楽しく、就職にも強いと思ったので、メディア情報学科を第一志望として勉強をすすめるようになった。

しかし、メディア情報学科に入っても様々なテーマがあるので、高校以来続いてきた迷いは今も止まっていない。自分自身のテーマを、より鋭く具体化するかが第一の課題である。

現在自分自身が最も意欲を感じる研究は、電子セキュリティーの構造を理解し、それがどのような形で用いられているかに関するものである。要するに、インターネットにて、どのようなセキュリティーがなされているか、現状は何か、課題は何かについて研究することである。

対話相手について

今回のレポートについて、個人的に対話相手としたい人は、自分自身の高校の時の同級生である金氏である。彼女は現在韓国に所在する高麗大学メディア学部在学中で、主に新聞メディアや通信サービスにおける研究をしている。また、彼女は、小学校と中学校を日本の公立学校で通い、大学は韓国であり、私と育ってきた環境は真逆だが、それであるからこそ対話相手として適した人であるだろう。彼女を対話相手とした決定的な理由は、彼女の研究しているものが似ていること、高校で3年間知り合っていることである。

対話結果

最初は軽いところから話を進めた。韓国での生活はどうか、課題は多いかなど、学生生活全般に関して話し合った。彼女は、「日本に帰って休みたいと思う」・「落ち着きがない」などと言っていた。

次は、彼女の専攻に関して聞くことにした。私が彼女に気になったことの一つが、「メディア学部」の学びについてだった。そもそも、私はメディア情報入門という授業で、メディアとはすべての物事における媒体だと理解していた。そのことを彼女に伝えたくて、「メディア学部」とは、何を学ぶところなのかと、話を伺った。

総合政策学部は2年次から専攻が決まる。他の学部やカリキュラムで多く見られるように、彼女の学部は、1年の時から専攻が決まっている。彼女の学部は、メディア・リテラシー、報道関係、消費者行動により着目して学んでいる。

だが、高麗大学メディア学部は、総合政策学部の1年次の様に、絞られた専攻はないとのことだった。例えば、法学部・メディア学部と、複数専攻する方がよっぽどキャリアにいいと言っていた。ここで私は、決まった専攻がないことは、考え方が自由でより広い世界を目にするいわゆる「綺麗事」ばかり着目するのではないかと思った。彼女の言った「広い視野を持ったとしても、深みがない」という言葉は他のなによりもインパクトが最も大きかった。メディア学部という名前でも、総合政策学部と似ている部分は多いと感じたところである。

夢の話もあった。自分がしたい勉強は何なのかということが最も気になったところだった。彼女は、学生たちで行う勉強会を3つ参加している。そのうちの一つは映画だが、理

由を聞くと「ただ単に好きだから」と言っていた。未だに詳しい夢はないらしい。

対話の間、常に妙な雰囲気だった。「妙」とは、今まで日本で暮らしてきて1年半前から韓国で生活している彼女が韓国語で話し、中学3年の時から日本にいる私が日本語で話した。日本語で言われたら韓国語で返す、またはその逆が続いていた。それを理解し合える仲であるからこそ、互いのメッセージが「言語」というメディアに、より深く伝わったのだろうと思っている。

「深みがない」という言葉は、総合政策学部の学びにも、インパクトを受けるのではないだろうか。「深く学ぶ」という言葉を深く刻み、これからの学びに深みを追求する努力を増やそうと思った。とりあえず学校生活に充実することと、何かを読むことから、始めようと思った。また、メディア情報学科の中で、何に絞るのかを考える大事な機会が与えられたので、それに対して考えようと思った。

結論

メディア情報学科に進むことになった経緯や金氏と対話をおこなった結果を踏まえ、自分自身の「迷い」について述べてきた。私が「電子セキュリティー」について研究したいと思った最も大きい理由は2つからなっている。一つ目は、パソコンを触ることが好きで、パソコン関係のものなら何でも研究したいことであり、二つ目は、生活に密接したものを研究したいことである。金氏の「深みがない」という言葉に対し、3年・4年の時に研究テーマに深く研究しようと思っている。まず、学校に通っているので、他人よりさらなる活用をして行き、研究テーマに関連している授業に積極的に参加し、レポートや書籍を読むことが必要である。

感想

韓国では「大2病」という言葉が流行っている。「大2病」とは、主に大学2年生が外部環境に対し大きく不安を持つことから、「中2病」という言葉に因んで作られた言葉である。私は「大2病」になっている一人で、迷い続ける自分にこれからの未来に対して恐ろしさを感じている。しかし、出席状況はよろしくない。自分自身が矛盾になっている。

そういった自分自身を励んだのがこのレポートであると思っている。この授業に対して全体的に満足しており、感謝している。

快適な生活空間のための建築

総合政策学部 都市政策学科 コウリキ

動機文

社会の進歩と伴って、経済や文化なども変化している。人間の生活が向上していく一方、生活の質に対し、非常に重視されている。私は衣食住の中の住（家、町）、すなわち、私たちの生活空間を建築の角度から、どう作れば、現在の人間にとって、一番住みやすい空間になれるのかについて研究したい。

私は建築について興味を持ち始めたのは中学生の時だった。きっかけは私のいとこの姉が建築会社に勤めていた。よく姉の家を訪問していたので、姉が描いた設計図を見つけ、説明してもらおうと、この一枚の紙から家を建てられていることに非常に驚いた。また高校生の頃にいとこの兄も建築の仕事を始めたため、工事、現場で見学する機会をもらった。建築物を建てている実際の様子を見学し、よい一層建築について関心を持った。また、私は幼い頃から絵を描くことを趣味としており、絵画塾を通っていたため、これから学ぶ建築に役に立つと思っている。

日本に留学しに来て、日本の建築物をたくさん見た上で、隣国なのに、建築物が異なっていることに興味を持った。やはり地理に関係もあるが、社会の面から見ると、国民の生活の豊かさも関係があると、国民の生活が豊かになりながら、生活空間に対する要求も高くなる。現在の中国が急速に発展し、もうしばらくの未来、人々の生活がもっと豊かになると、自分が生活している空間に対する基準も高めるだろう。その時、隣国にある日本の建築が一番参考になる模範じゃないかと思う。しかし、快適な生活空間を作るために、その建物だけを住みやすいように作るでは足りず、建物から出て、外にある空間もより良い環境を作らなければならない。つまり、私たちが住んでいる町の構成をどう作れば、住民にとって、一番町の快適さを感じられるか。この二つのポイントが合わせれば、快適な生活空間ができると思う。

私は建築物と町並みの面から、どうすれば、快適な生活空間ができるのかを研究する。

建築物：うちの空間デザイン 建物の材質 窓の向き ……

町並み：交通の便利さ 施設の健全 ……

対話相手

石井 健太郎 建築プログラムで勉強している友人

なぜ建築勉強しようかについて、彼は今大阪の京橋に住んでいて、京橋の建築物が単調で雑然だと思っている。そして、日本の町並みをきれいにしたいという思いがあって、よく図書館で建築関係の本をみていて、建築やっぱカッコいいなど。また、彼はデザイン、芸術が好きで、理系のほうも得意なので、それらを生かして、勉強できるのは建築だと彼が思っている。それで大学で建築を勉強し始めた。将来も建築のインテリアや土木の仕事をしたい。

対話結果

彼自身にとってはどんな居住空間が一番快適について、彼はこの問題について、自分の地元の環境から話を始めた。まず、京橋のイメージを言ったら、人口数がかなり多く、それとともに、ごみ問題も大変厳しくなっている。快適な生活空間を作ろうとすると、当然清潔な町にしなければならないと彼がそう言った。また、彼が一番気になった問題は建築物の外観の問題で、京橋の建物のうち、古い建物（伝統的な建物ではなく）が数多くあって、そこに住んでいると単調な感じがすると。そして、建物自身が周辺の建物と合わないという点も強調した。彼が思った理想的な町では全体的から町のデザインをするべきだと考える。

自分が研究したいテーマについて

1、中国の町並みを作る際には、日本の町並みを参照できるのかについて、彼は日本の町並みのメリットとデメリットから分析した。メリットとしては、まず、日本の建物は高層ビルが多い、それのおかげで、山地が広くある日本にとって、有効に土地を利用することができる。そして、建物のもう一つの特徴としては、住宅のマンションなどが独立されている。独立されると自由にデザインすることができる。そして、開放的な生活空間も作れるだろうと。この話を聞いて、中国の住宅のマンションの様子が浮かべた。図1は中国にある住宅地の配置図である。日本と違って、たくさんのビルが集まり、「区」という単位をつけ、一つの住宅地になっている。確かに、「治安の視点から考えると、メリットもあるが、しかし、その反面、住民たちにとって、囲まれた場所に住むと、自由を奪われた感じがするんじゃないかと私はそう思っている。また、メリットであげられる例としては、日本の交通の便利さである。例えば、電車、地下鉄、バスなどの交通機関が町の隅々までに分布されている。それと町自身の機能を果たしていること。町は生活する場所という意味があると思うが、人々に精神的にも影響があると思う。例えば、京都は歴史都市として、伝統的な建物がたくさん保留され、現在の若者にとって、歴史を知るために、素晴らしい教材じゃないかと思う。



図1

デメリットについて、日本では山地が多くあり、土地をよく利用するために、山地を開発するのが現状である。しかし、山地に住宅などを建てると様々な問題も出てきた。まず、交通が非常に不便で、地域に住んでいる人たちの公共交通手段はバス以外ないという状態であり、自宅の車を持たなければ、移動も非常に難しいだろう。そのような町は私の身近にもある。三田市は新しく開発した町で、山の中にあるため、そこに行くのに、バスは普通の交通手段になっている。確かに電車もあるが、トンネルを利用しているので、チケットも高いし、本数も普通の電車ほど多くない。土地をよく利用するため、このような状態はやむを得ないと思うが、例としてはいい経験になるだろう。

2、理想的な街づくりについて、彼はこんなことを言った。自然に近い町を造ろうと。なぜかという、現在の町を造る際には町の機能性や便利性を主に中心として造られている。しかし、人間にとって一番大切な自然環境をここで無視してしまうことが深刻な問題になっている。自然は人間にとって無くしてはならないものだと彼がそう言った。解決方法としては、例えば、花壇を利用し、町に緑を増やすなど。

結論

研究テーマ「快適な生活空間のための建築」についての対話した上で、以下の結論になる。まず、建築物自体について、その中の空間を当然住みやすいように作らなければならないが、建築物の外観のデザインでも人に快いイメージを伝わなければならない。そして、外観のデザインを設計する際には、周りの環境にも合えるように作るべきだ。そもそも、この町全体の様子を設計する時にデザインを考えると良いと思う。また、中国と日本の住宅用の建物を比べると日本にはマンションなどが独立されていることがわかる。そのようになると、住んでいる人にとって、開放的な自由化が与えられると思う。次に、建築物を置いて、町の構成について、建築物とは違い、町は人間公共な生活空間であり、公共なので一人一人に快適感を伝えるべきだ。そこで、公共交通機関や様々な施設が健全になっているかどうかは大切である。また、町の機能を果たしているかについては、町は様々な機能を果たしていて、住宅がいっぱい集まっている町、商業のための町、観光のための町、そして、歴史町など。このような町をよく機能を果たすために、設計する際にも機能によって、設計しなければならない。最後、町を作る際にかなり重要なポイントは町の緑化である。自然に近い町を作ろうと思っている。

感想

今回の対話を通じて、隣国である日本の建築や町の構成などをよりいっそう理解することができた。現在日本に住んでいても、やはり外国人から見えた日本の町と日本人から見えた日本の町はかなり異なる部分があると思った。快適な生活空間を作るためには、自分考えたことはまだまだ足りないと感じ、これから大学での勉強を通して、より深くこの領域の知識を学んでいこうと思っている。また、初めてこのような形で友人と話し合いをするので、非常に良い経験になると思う。自分が何かを理解した上で、他人からの意見などをもらえれば、非常に役に立つと感じた。

韓日 FTA

-韓日 FTA の成立は可能だろうか-

総合政策学部
国際政策学科
崔ユリ

1. 動機

現代社会で貿易は重要な経済活動であり、国々の政治的立場を表す指標でもある。それでは貿易とはなんだろうか。簡単に言えば、国の間で物を売買、交換することである。

貿易の種類も数多く、WTO という貿易機構に入会している国々が、自分らの利益のため関税をもっと安く輸入、輸出できるよう、アジア、ヨーロッパ、アメリカ中心、中国中心などの貿易グループに分かれ、TTP や、FTA、RCEP など活発な貿易活動を行っている。この中には韓国と日本も含まれており、両国は各自、他の国との貿易関係を結んできた。しかし、日本と韓国は位置上、同じアジア国で、近いところに位置しており、貿易の利点が多いにもかかわらず、未だに両国だけの貿易関係は成立していない。代表的に挙げられるものとして自由貿易協定 (FTA) がある。国家間、貿易の壁の緩和や排除することが目的であり、低い関税や、関税撤廃を目指す貿易である FTA を両国間で結ぼうとする動きは何度かあったが、実際に実施はされずに終わってしまう。底には歴史の問題や、国々の事情があるようだが、しかし、不思議なことに全く貿易を行っていないわけではなく、韓中日 FTA はまとまっている。

それでは、なぜ、韓国と日本、両国だけの FTA すなわち、貿易関係は成立しないのか、どのような問題があり、交渉がまとまるとメリットは何であろうか。

私は留学しながらいつも疑問だと思っていた両国の商品の値段の差や、日本で買えない韓国商品などの疑問を韓日 FTA から考えていきたい。

韓日 FTA をテーマとしたのは、韓日貿易に関心を持っていて、韓国と日本がもっと自由に、安くお互いの物を手にすることができればいいのではないかと思ったからである。

まずは貿易に関心を持ったきっかけから始めたい。日本に留学してから3年、日本に来て感じたのは韓国で売っている日本の物が高いこと、日本でも同じく、韓国の物が高く売られていることだった。わかりやすく食べ物を例としてあげると、サムギョプサルや、キムチ、韓国式のチキン、トッポッキなどは季節や、その年の食材の具合によって3倍以上高くなる場合もある。私としては韓国で売っている韓国料理の値段を考えると日本で韓国料理が食べたくなくても韓国料理を買って食べることに負担を感じる。また、化粧品などは日本人にも結構人気があるが、韓国で売っている物と比べれば、値段の差が大きかった。同じく、韓国で売っている日本の化粧品や食べ物なども価額の差が大きい。留学している私としては日本のいい商品や韓国のいい商品が両国どこでも買えることが望ましいし、値段の差が大きくない方が負担が少なく済む。また、韓国では日本の物が人気があり、日本では韓国のものが人気があることも多く、値段の高さ、これらに対する人々の欲求から両国を行き渡る貿易に関心を持つようになった。

次に、様々な貿易関係の中でも韓日 FTA に注目した理由としては韓国と日本は既に様々な国々と2ヶ国間の FTA を結んでおり、活発に貿易活動を行っているが、地理上で一番近い日本と韓国が FTA を結んでいないことに気づいた。FTA は自由貿易協定の略字で国家間、物の自由な移動のため貿易の壁の緩和や排除することが目的であり、低い関税や、関税撤廃を目指す貿易である。関税が安くなるだけでも両国の商品の値段はもっと安くなり、輸

入、輸出は増え、経済的にも良い影響を与えるだろう。日本や韓国で両国の商品に対する欲求が高まることを考えれば、欠かせない貿易関係でもある。実際行われている韓中日 FTA は韓国と中国の貿易が既に進んでいることから日本があまり活躍できず、うまく進まない。

これらを考えれば、日本と韓国は両国だけの FTA を結ぶことがもっと利益につながるのではないかと。なぜ韓日 FTA の妥結は毎回無効になってしまうのか、調べるほど、疑問が増え、この点が私が韓日 FTA に関心を持ち研究テーマとして決めたきっかけであった。

2. 対話相手

坂口 勝一先生は、現在の国際金融体制での財政調整はどこまで有効なのか、また財政破綻を予見し回避するためにはどういった政策オプションがあるのかといった現在の国際金融システムにおける財政調整の問題を研究テーマの一つにしている。担当科目としては、これまでの財務省、IMF、アジア開発銀行等での勤務経験を踏まえ、「国際経済学」、「国際発展政策」などの科目を担当している。

坂口先生は過去韓日 FTA の会議に参加したこともあってこのインタビューを通じて韓日 FTA がなぜ成立しないのか、予測されることを聞きたい。また、韓日 FTA の成立によって得られる両国の利益についても先生の考えを聞きたい。坂口先生の場合、財務省で働いた経歴があり、FTA 交渉にも何度か関わっているためこのような FTA に関する事に詳しいのではないかと考えた。関係者であった先生の考えがこのインタビューから聞き取れば研究テーマにもいい参考になると考えたことが坂口先生をインタビュー対象として選んだ理由である。

3. 対話相手インタビュー

私：韓・日 FTA が進行しようとする動きは？

坂口先生：2003 年から 6 回の交渉があった。特に仲が良くなった時、しかし、国民の反対にぶつかり、途中で中止。

私：韓・日 FTA が締結しない理由としてはどのような問題が？

坂口先生：日本と韓国の歴史問題や、経済、政治的にも難しい。もし、日本が韓国との自由貿易で関税を下げることを欲求して韓国が関税を下げれば、韓国の国民が日本に負けたとして怒る。竹島、慰安婦、昔植民地だった理由などが重なり、韓国としては日本はまた無茶なことを言い欲求してくる存在として認識し、日本としてはあまり強く言うと反発が起こるので強く言えない。しかし、交渉は強く言うもの。なので韓国とはやりにくい。交渉するとまた喧嘩になるので、よっぽど経済的なメリットがない以上、交渉は難しい。

私：FTA が締結すると損する国は？

坂口先生：韓国で半導体及び、工業製品の一部は安く作れるが、日本の方が強いものが多い。トヨタなど。一方、韓国の農業は強い。しかし、日本は農業製品に関して関税を下げた歴史がない。なので、韓国の方が損する可能性が高い。

私：締結したらお互いの商品を消費者がより安く買える可能性は？

坂口先生：例えば、キムチは日本でも作っている。韓国のキムチが日本に入ってくるのは韓国のキムチじゃないと食べない人向けであって輸入する量は少ない。そのため高くしないと採算が取れない。また、日本人はクオリティーが高くないと食べない。関税より、物を高く売っているのはマーケティングでもある。

私：なぜ韓・中・日 FTA はうまく機能していないと思いますか？

坂口先生：韓中日は FTA が成立しているわけではない。交渉だけ。韓中日の自由貿易は国々の関係がそんなに良くないため進めてはいるがなかなか進まない。しかし、経済、政治、いろんなものを考えると日本と韓国が一对一で自由貿易を進めるのは無理がある。中国を含めて3ヶ国が進めた方がうまくいく。

私：もし、韓国が TPP に入れば、韓・日 FTA は必要ではなくなると思いませんか？

坂口先生：TPP は結構自由化率が高いため、韓国が入れば、日本と韓国が自由貿易をする意味はない。ただ、2カ国が TPP より関税をもっと下げることになれば、意味はある。

私：韓・日 FTA に関する先生の考えを聞かせてください。

坂口先生：韓国と日本の自由貿易が締結することが望ましい。韓国と日本はすでに文化、お金、人などいろいろな交流が進んでいる。韓国の人間関係を大切にすること、上の人を敬うなどの日本人がだんだん失っていくもの、映画技術などを日本が見習い、韓国は日本のテクノロジー、環境技術、医療技術などを受け入れることが両国でもっと行われるべき。お互い傷つけることはほどほどにしてもっとポジティブな関係を作ることが重要。

4. 結論

今回のインタビューでは自分が間違っって受け入れている情報や、知らなかったことについてもっと詳しく知る機会となった。日本人として、そして、韓・日 FTA 交渉に参加した人として先生が語ったのは韓・日 FTA は歴史、政治、経済、国民の反応が反映され、実際実現されることは無理があり、また、仲良くなろうとするとき、わざわざ自由貿易交渉でまた喧嘩をするほどの経済的メリットがないことであった。私は韓日 FTA が締結しない理由は両国の歴史や政治の問題だと思っていた。なので両国が自由貿易の交渉をするほどの経済的メリットがないということに驚いた。自由貿易が関税を撤廃することに意味をおいているので貧しい国ならば、先進国との自由貿易で高かったものが安く輸入でき、また、輸出を通じて当然得るものが多いが、韓国と日本は両国とも先進国であるためメリットが減少してしまう。特に、韓国が自慢する農産物に関しては輸出したくても日本は農産物について敏感であり、自国の農産物を守ろうとし、関税を撤廃した歴史がなく、お互い得るものがない。半導体に関して日本が韓国と関税を撤廃して得られるものはない。両国を代表する農産物や半導体が関税撤廃でのメリットがないため、これ以上の経済的メリットがないと自由貿易が締結することは期待しにくい。

また、関税に関して日本でも売っている韓国のものが高い理由は、関税以外にも、韓国で輸入する物の需要や、クオリティを考慮したマーケティングの一つであることだった。後、動機の部分で「韓中日 FTA はまとまっている。」とすでに締結しているように述べたが、これについても坂口先生とのインタビューからまだ交渉中であり、締結はしていないことが分かった。

最後に坂口先生の考えを聞くと、経済的メリット以外にも自由貿易を通して韓国とお互い見習うことは見習いながら、ポジティブな関係を作ることが両国の経済面にも政治的にもいいことであるという考えであった。私としては両国の FTA がそこまで難しいとは思ったことがなく、関税以外にマーケティングによって価額が違ってくことも予想外だったので色々学べる機会となった。坂口先生の貿易を通じたポジティブな関係作りという考えには同感である。よっぽどの経済的メリットはないかもしれないが、先進国としての両国がポジティブな関係で仲良くなればなるほど、多様な面で成長することが期待できるだろう。

5. 全体的な感想

インタビューを中心に書いていくレポートは楽しくて自分にもいい勉強になりました。今まではただ本を読むや、文献を探してレポートを書いていたのですが、実際、自分が決めたテーマに関連のある人をインタビューすることはすごく役に立ちました。インタビューに向けて相手に合わせたり、質問を考えたり、録音したものをうまくまとめることは大変でしたが、インタビューをしながら感じたのは自分が調べてわかるものは限界があり、インタビューすることで自分の考えが変わるかも知らないということでした。この日本語の授業での今回のレポートは自分の考え方を見直す機会ともなったと思います。

日本語の配慮表現と敬語

陳東梅

コミュニケーションの中で、各種の配慮表現が必要である。日本語の配慮表現を学びたいが、配慮表現はなんだろう。心をくばること。心づかい。(大辞林 第三版)それは当事者の気持ちを配慮すること。山岡・牧原・小野(2010)により、配慮表現は対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられる言語表現と定義した。私にとって配慮表現は他人と矛盾が発生する時、トラブルになる前に、他人の立場に立ち、みんながいい気分になるため、気配り表現としてよいコミュニケーションを行うための重要な要素の一つである。

配慮表現を使うのはマナーの一つである。日本はマナーの国と言われている。郷に入っては郷に従えという諺がある。私は今、日本に留学しているから、日本のマナー、日本語の配慮表現を学ぶべきである。なぜなら日本人と会話するときには、なんだかどんな言語表現を用いれば相手を喜ばせるのか全然わからないので、相手とのコミュニケーションを順調にできないから。例えば、アルバイトの時、他人に迷惑をかけて、ただの「すみません」だけでは済まないということが知っていた。「何がすみません」や「気をつけること」なども言う必要があるし、言いながら、配慮表現も使わなければならない。相手をよく気配ってからこそ、不必要の誤解を避け、発話の目的をよく達成することができるように、日本語の学習者特に在日留学生にとって、異文化コミュニケーションの中での配慮表現を使用する意識が必要である。日本で何年間もいるのに、日本人と自然なコミュニケーションができないのは恥ずかしいことではないかと思う。また、日本語学習者はよく配慮表現と敬語を混ぜて使うことがあるから、その問題を解決したい。

話し相手について

私の話し相手は金雄という名前で、留学生である。関西学院大学前に、日本語学校、専門学校は同じで、結構長い時間の友達である。彼は日本語教師になるという中学校からの夢がある。だから、日本語さまざまな表現、例えば私研究している配慮な表現、曖昧な表現と留学生結構難しいと感じられた敬語も興味がある。私の研究したいテーマを彼に言ったら、彼最初は難しいと言っていたが、私の考えかたを聞いたら、彼自身も興味があるから、できるだけ助けてくれる、一緒に頑張ろうと言った。彼はまだ大学に入っていないから、専門ではないが、中国で日本語の専門学校に通って、日本語上手である。一緒に授業する時、よく自分の考え方、意見を言うのだから、しかも意見などよくポイントが掴まれる。だから、話し相手としてきっと様々な意見を出してくれるだろう。

対話結果

彼から意見としては、配慮表現はいろいろな時に使うといわれた。依頼する時、謝罪する時、不満する時。やはりさまざまな感情での配慮表現もいっぱいである。また、配慮表現としての副詞と文末表現なども考えられる。例えば、副詞の「ちょっと」、「ぜひ」や文末表現の「～かもしれない」「～たいと思う」ぐらいなどであるが、配慮表現はきちんと決まっていないようであるから、それは難点である。また、留学生は配慮表現と敬語を混ぜやすい、誤用する時も多い。この点については日本に来てから、日本語の環境があるからこそ、深刻に感じた。だから、中国での日本語教育は配慮表現と敬語を区別する工夫が必要である。

国語審議会第 22 期第 1 委員会では「敬意表現の検討にあたっては、狭義の敬語だけではなく、「催越ではございますが」、「御高名は伺っております」など、相手に遠慮した失礼にならない表現や、「春らしいスカーフですね」のように積極的に相手を喜ばせる表現も大切。敬語というと上位者のためのもの。「配慮表現」ではどうか、という意見もあった。(議事録より要

旨)

陳：誤用しやすい原因として、何だと思う。

金：誤用の傾向は、日本語学習者は上位者に対して、敬語表現を用いることが多く、配慮表現における使用意識が比較的に低い。相手に対する配慮を考えることが主に敬語表現を使うことがわかった。その原因は日中両国の文化相違、学習者の思考意識、言語表現の把握程度、日本語教育などに関わる。例えば、従来日本語の教育は文法と敬語のなど言語知識を重視することである。配慮表現のような文的な特有な言語表現、及びに異文化が言語にたいする影響を軽視すると思う。

陳：配慮表現と敬語表現どうやって区別するのか。

金：配慮表現と敬語表現の共通点として、自己を他者の立場におく心理が働くことである。両者とも対人的な気配りであり、相手を丁重に扱う丁寧さである。配慮表現と敬語表現も対人的な気配りであるが、敬語表現は相手を上位にして敬意を示す言語表現であるのに対して、配慮表現は必ずしも相手の敬意を表す表現とは限らない。例えば、「お父さん」という単語を例にしてあげてみよう。相手の身分が違うと、「お父さん」形式が変わる。相手が尊敬すべき人であれば、「お父様、いらっしゃいますか」ということになる。相手が母ならば「お父さん、いらっしゃるようですよ」という話し方ではいいはずである。相手が社長ならば、「父もいと申しております」というのが正しい言い方である。

陳：どうしたら配慮表現と敬語表現を区別し、正しく使うになりそうなのか。

金：配慮表現に敬語が用いられたものであるが、配慮表現が必ずしも相手の敬意を示す表現とは限らない。もっと偏重したのは、同じ内容を違った形で柔らかく表現することである。たとえば、友人や後輩に対する、「悪いんだけど、頼んでもいい？」この表現では、敬語を使わないが、依頼することは相手の負担になったり迷惑になったりするという認識を前置きとして述べる点では、相手に対するなんらかの配慮を示しているということができる。

配慮表現と敬語表現の使用原則もはっきりしていないである。会話の場面を考える意識が低いである。また学習者自身は敬語表現が優先するという思考意識が強いである。

そして敬語表現と配慮表現を習う難点は言語内部の知識ではなく、言語外部のコミュニケーション条件や社会環境である。学習者に対してはコミュニケーションしているときに、正しい表現で話すだけでなく、相手を理解するという行為についても着眼する必要がある。

結論

やはり配慮表現が相手の気持ちを配慮して、曖昧な言い方は配慮表現の特徴である。異文化コミュニケーション上の問題を起こさないように、日本語教育にこの配慮表現を使い、配慮の気持ちを持つという意識がなければならない。

「相手が自分をどのように待遇しているのか、相手がなにを伝えようか」を相手の気持ちになってみる、それから、上下、親疎の人間関係を認識しつつ相手の表現や相手を理解しようとするなどなどの問題をよく考えればよいと思う。相手をちゃんと配慮して、敬語表現あるいは配慮表現を適切に選択して使用しよう。

ゆえに日本語教育者は日本語の言語知識を教えるだけでなく、適切に日本文化や日本の配慮文化を教えるべきである。つまり、日本語学習者は正確に日本語を運用するだけでなく、上手に適切な言語表現を選んで異文化コミュニケーションを行うことができる。そして敬語表現と配慮表現を習う難点は言語内部の知識ではなく、言語外部のコミュニケーション条件や社会環境である。

また、どうやって区別することの不足点や使用原則なども今後の課題として研究したい。

授業について

春学期、自分研究したいテーマを考えていく。もちろん、テーマは自分の学科と関わるテーマがいい。真剣に考えた上で、テーマに関わる資料を探すだけでなく、自分研究したいテーマについて関連部分が知っている話し相手を探す。一緒にそのテーマを深く考えながら、話す。その過程は楽しかった。なぜなら、話し手も積極的に協力し、調べ、話してくれるから。その話の過程で自分と違う考えももらえ、新たな思いも出られる。自分以降の卒業論文などもヒントになれると思う。話し結果はレポートにとって、もう一個の資料になるし、自分にとっても、知識が増え、勉強になり、楽しかった。

中国 WeChat は日本で普及できるだろうか

総合政策学部
メディア情報学科
ヨウレイ

1、 序論

現在このインターネットなしで生活できない社会において、人々はみんな無料アプリで周りの人とコミュニケーションをしている。日本国内で最も人気であるアプリといえば、LINE をあげる人が多いのではないのでしょうか、LINE は 2011 年 6 月にサービスを開始して以後、ユーザー同士で、音声・ビデオ通話・スタンプメールが楽しめるコミュニケーションアプリとして、世界中で利用が拡大している。その一方、日本 LINE と匹敵できる中国 WeChat が急激にユーザー数を伸ばしてきている。

WeChat は無料のメッセージと通話のアプリです。世界で約 13 億人のユーザーが利用し、中国国内において、約 8 億人が利用している。

本レポートでは weChat 独特の機能を紹介し、日本に普及できない問題点について述べていく。

2、 動機

最近大丸に買い物行ったら、一階にある全ての化粧品売り場とも[WeChat Payment]（微信支付）サービスを利用している。このサービスは訪日に来ている中国人にとって、すごく便利です。問題はごく一部の店しか利用してないだ。もし日本国内にある各種店舗全てこのサービスを利用すると、中国からの旅行者は外国でのショッピングや観光をもっと楽しめる事ができるし、日本にとっても、経済的にプラスになる。

3、 Wechat 特別の機能

Wechat は日本 line とあまり差がないが、よく言うと、お年玉が送れる、シェイク機能、ボイスチャットをよく使うこの三つは日本 line より優れている機能だ。

まず、お年玉が送れるの方ですが、中国【紅包】といいます、これは友人にお年玉を贈る機能だ、友人に金額を指定して送ったり、グループチャットで限度額を決めて送ったりという方法が出来ます。中国ではお正月とか、皆お互いに送っている。

シェイクについて、日本 line もシェイクの機能があるが、wechat は line より高機能を持っている。人に対して、line と同じ、友人を追加するときに使う、それに、聞いたことあるけど、曲名が分からないとき、シェイクすると、その曲名などを教えてくれる。

最後、ボイスチャットのほうですが、日本 line にも同じ昨日があるが、使用する人は少

ない、中国の人はボイスチャットを結構使用する、中国では電車内などでの通話が制限されてないため、テキストで伝えにくいものはボイスチャットで伝えることが多い、このあたりは文化や環境の違いから同じ機能であっても、使われ方や使用ひんど違うが出てくる。

4、対話相手について

今回のレポートについて、対話相手としたい人は私の友達である張燕です。彼女は WeChat サービスが利用し始めた頃から、WeChat だけに注目している。WeChat Payment サービスが初めてから家具、服、りんごまで全ての物携帯で注文している。さらに、彼女は WeChat を利用して、ネット商売をしていて、毎月約400万円の収入ができ、二年間で2000万円のマンションを買う事ができた。WeChat の便利さと言ったら彼女より詳しい人はいない。それに、いつか WeChat が世界に普及する事ができたら、外国の物も簡単に手に入る事ができるだろうといつも言っている。この人を対話相手とした理由と言ったら、彼女が WeChat に詳しいからです。

5、会話結果

ほとんどの人々が WeChat を使用しようと思った理由は、登録方法としては WeChat ID だけではなく、電話番号での登録はもちろん、みんな使いきれている qq ID を使って登録する事も可能なので、すごく便利だ。それより、WeChat はプライバシーの保護にも力を入れている。タイムラインで乗せるメッセージは友達以外、あるいは、見せたい人だけに見せる事ができる、それに、自分の友達が入れてくれたコメントは他人一切見る事ができない。

周りを見てみたら、10人の中、8人が携帯を触っている。二人がぼけとから携帯を出ずとしている。現在この携帯に依存している社会において、どうやって携帯を利用して稼ぐのは彼女が考えた。WeChat は無料コミュニケーションアプリだけではなく、印刷宣伝の手段でもある。誰でも最初の頃、ただの消費者として、WeChat を使って買い物するだけ、だんだん自分が消費者から経営者になってきている。WeChat の友達を増やす方法、友達に商品を推薦する方法、買ってくれるひとが受益者として、宣伝してくれる方法を探しつつあって、今の彼女約3000人を率いている、毎日、何もせずに、携帯だけで、日二万円ほどの純収入ができる、彼女の話によると、昔は実店舗、TaoBao (淘宝) の世界かもしれないが、これから WeChat の世界だ。

WeChat が日本で普及できるかどうかについて、彼女は自分の意見を述べてくれた。彼女は Wechat が日本に普及させても失敗だろうと言いました。理由としては、三つの原因と言いました。第一、Wechat が国際市場にしようという時期が間違っている。Wechat 会社国際化するのには2012年、その時、日本社会は Line というアプリが普及している、こんな

とき新しい無料アプリできても、使ってくれる人が少ないだろう。コミュニケーション道具として、友達が居ないと、コミュニケーションが出来ない、つまり、存在する意味がなくなります。

第二、中国 Wechat は中国で発明してから、よく言うと、中国の国民のために作られている。今中国の国民の 90%が WeChat を利用していて、キャッシュカードの代わりのもので使われている、その一方、彼女先月アメリカに旅行に行ったとき、wechat での買い物何の一つも出来なかった。Wechat が中国でどれほど成功をとったにかかわらず、世界での成功を取るため、世界のいろんな企業との仲間関係を作らないといけない、そこには、結構金銭面の話題になっている。

第三、さっきほど言ったように、アメリカ Wechat は中国 Wechat のように、wechat サービスを利用することが出来ない、それは、もしかして、アメリカは wechat 会社が国際化にする相手ではないだろう、私は、日本 wechat をダウンロードしてみたけど、一番問題だと思っているのは中国 wechat でのスタンプは種類様々で、ほとんど無料だ。日本 wechat で【となりのトトロ、ひとえうさぎ】などのスタンプを調べてみたら、ぜんぜん出ない。Wechat あくまでも、中国の国民のために作られているものだと強調したい。

6、結論

友達との話し合いの結果によると、中国 Wechat が日本に普及するのは結構難しい話ということが認識して来ました。しかし、経済面から見たら、Wechat payment の利用を通じて、より多くのお客様との出会いと結びつきを創造する事が可能だ。また、中国人観光者が利用している支払う方法を設備する事で、買い物しやすい環境を提供して、購買意欲を喚起する事ができる。

6、感想

日本語 3 の授業を通して、レポートが書けるようになったの気がする（以前、レポートは私にとって、コピー、貼り付けの過程でした）、メディアにおいて、自分が興味を持っているテーマを選んで、そのテーマに対して、十分な調べが必要。また、会話の話し合いにより、自分未熟な考えは改善できるし、自分の考えなかった部分もきついてくる。これからのレポート書くにはすごく役に立つ。

満州語の消滅について

呂家良

1. 動機文

私は中国の北東部の黒竜江省ハルビン市の出身で、「ハルビン」っていう言葉は満州語に由来した言葉なのだ。清朝の時は、満州語が公用語とされ、今や満州語を使いこなせる人が一人もいないのである。言語は文化のキャリアーであり、もしその言語が消滅したら、その文化も消滅していく。一度、新聞で「満州語を使いこなせる人がいなく、数十トンの満州語の史料が倉庫で眠っている」というような記事を見て、すごく惜しいと思いながら、私は満州語の消滅という問題に関心を持つようになった。

また、一度、テレビでウイグル語に関する報道を見た。いまやウイグル族の発祥地である新疆ウイグル自治区では、漢民族の人口が急速に伸びて、半分を占めている。こうした状況のなかで、ウイグル語を母語とした人の減少している。なぜ子供に中国語を母語として勉強させますかと記者のインタビューに応じたウイグル族の母親は以下このように答えた。「ウイグル語しか話せないなら、将来、子供の進学、就職するときの選択肢がそうとう限られる」。この報道は私に考えさせられた。今の傾向が続いていけば、ある日、ウイグル語も満州語のように消滅言語になるだろうと考えた。経済、政治、人口などの分野で漢語いわゆる中国語が優位に立つことによって満州語のような話者の少ない言語が消滅の道を歩んだのではないかと、満州語の消滅への関心がいっそう強くなった。

有力の少数民族の言語であるモンゴル語とチベット語ははなしされつつある。満州族の人口数は一千万人を超えているが満州語は今や消滅言語とされている。なぜこのようなことが起こったのか。私は高く興味を持っている。

中国の歴史を考えれば、統一と分裂を繰り返した歴史が見えてくると思う。その中には、中国全土を征服した夷狄いわゆる異民族もある。それはモンゴル人と満人である。前者は自民族の生活様式をだいぶ維持してきた。いっぽう、後者では維持できず、ほぼ喪失した。清朝が滅んでから今に至って、わずか 104 年しか経っていない。思いもよらず、今や満州語を使いこなせる人は一人もいないのである。かつて中国全土を征服し、大清帝国を樹立し、268 年にわたり統治していた満州族が今現在、消滅の危機にさらされている。漢民族が昔ながら、少数民族に対して、圧倒的な人口、経済、政治の優勢を持つことによって、満州語の消滅につながったのではないかというふうに思っている。なぜ、わずか 104 年間で満州語を使いこなせる人が一人もいないという深刻な状況になっているのか、考えていきたいと思う。

2. 対話相手

対話相手は神戸大学博士後期課程在学中の張さんである。張さんは大連出身で、日本語学校で知り合った。彼はいま東亜の言語比較、主には日本語と中国語の言語比較を専攻している。学者になろうとがんばっている。消滅言語は張さんの専攻ではないが、学部、大学院の段階で専門知識を蓄積し、大先輩としていろいろ教えてくれた。

3. 対話結果

対話がスムーズにいけるように、事前に関連情報を探していた。(現在、中国においては政府に認定された民族が 56 個もある。そのうち、漢民族を除き、他の民族は全部少数民族であり、中国の総人口に占める割合がわずか 9% に過ぎない。ということで、漢語ができないと日常生活にも支障をきたすと言えるだろう。それに、満州語の読み書きが不便ということは満州語が主導する言語統制の失敗は必然である。それぞれが満州語の消滅につながっている)。張さんは論文や学会のことで忙しくて、35 分ほど、主には満州語の消滅の原因について話し合った。

私が最初に考えたのは、明から独立し、後金国を建国する前に、満州族の人たちが単一に近い文化環境で育ったため、漢民族の文化を多く受け入れることがなかった。中国全土を制圧してから、多民族国家の中で、異民族との文化融合は不可避になり、人口面また経済的・文化的に優勢な大言語である漢語(中国語)に圧倒されることになった。

張さんは以下のようにコメントした。清朝においては統治階層である満州族が多くの特権がある。しかしながら、致命的なのは人口面では征服者の満州族を漢民族と比べれば桁違い差がある。また、遊牧民族である満州族が漢民族より文化的に後進し、統治基盤を固めるために、明の政治制度をほぼそのまま受け入れたゆえ、官僚や役人も漢民族から多く登用することで統治の安定化を図っていた。また、満州語が用いる満州文字はもともとモンゴル文字の表記をそのまま応用し、使われていた。その後、ヌルハチの継承者である皇太極が文字表記の改良を指示し、「有圈点字」が発明された。それにしても、満州文字が相変わらず読み書きが難しく、清の中葉から文献の場合は満州語より漢語のほうが優位であるようになった。それとともに、統治者自身も満州語による言語統制の発想を放棄した。

人口、政治、経済面で優位に立つ言語が競争において、優位が続けていく。逆に、劣位に立つ言語の話者が減少しつつ、最後、消滅に至ったということ二人が共感した。

言語の消滅への感想を張さんに聞いて、「一概にいいか悪いかは言えない」と答えた。さらにその理由を聞いて、少数言語の消滅は少数民族の文化の消滅に伴うことが惜しいが、積極的なこともある。具体的には、優位な言語、特に英語は教育、科学研究など、多くの分野の公用語である。少数言語の話者が優位言語をマスターすれば、自らの競争力も高まる。例として、第二次世界大戦後独立したインドは、「国策」として、工科系など理系の人材を積極的に養成し、自国の競争力を上げようと、英語教育を推進している。いまや、IT の人材が輩出し、成果を上げているのである。張さんは以上のように答えた。

4. 結論および感想

征服王朝である清朝が、建国してから滅亡するまで、被支配階層による武装蜂起や反乱が多くあった。統治の安定化と多民族国家における民族の統合を図り、満州族自ら進んで文化融合を推進していた。特に、文化的に先進し、人口面においても絶対多数である漢民族の文化を学びつつあった。文化融合が進む一方、自民族の文化も喪失しつつあり、満州語も消滅の道へ歩み始めた。満州語の滅亡の道をたどれば、単なる漢化のみならず、満州族は支配者でありながら、自民族の文化を守れず、喪失し続けてきた歴史も見えてくる。

満州語の消滅に対する私の思いは複雑である。なぜかというと、言語は文化のキャリアであり、ある言語が消滅すれば、その文化も消滅するからだ。新聞の記事で紹介したように、いまや満州語を使いこなせる人がいなく、数十トンの満州語の史料が倉庫で眠っ

ている。それらの史料が翻訳されればいいのに。惜しい気持ちが持っているが、プラスな点もある。それは、言語が統一しなければ、アフリカの一部の国のように国内でさえ互いに通じないことが多く、生活に大きな支障をきたすことだけではなく、政治的不安定を招くこともある。

5. 授業への感想

今学期の日本語の授業を受けて、秋学期のゼミ選択に向けて、専攻したい分野への勉強が深まった。自分で参考文献から関連知識を得るだけではなく、先輩と対話していろいろ勉強になった。また、自分の知識の足りない部分も認識し、これから勉強していこうと思う。ぜひ、ゼミ選択を迎え、秋学期で学びをいっそう深めたいと思う。

関西学院大学総合政策学部 2016 年度春学期

日本語 III レポート集 私の研究テーマ

発行日	2016 年 9 月 20 日
発行	関西学院大学総合政策学部 牲川波都季 669-1337 兵庫県三田市学園 2-1
編著者	関西学院大学総合政策学部 日本語 III 受講生
問合わせ先	牲川 波都季 segawa@kwansei.ac.jp
